取扱説明書

AV 調整卓　SV-F シリーズ

このたびは、TOA AV 調整卓をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
正しくご使用いただくために、必ずこの取扱説明書をお読みになり、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

TOA株式会社

目　次

安全上のご注意

- ご使用の前に、この欄を必ずお読みになり正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、いつでも見られる所に必ず保存してください。

表示について

ここでは、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

図記号について

行為を禁止する記号			行為を強制する記号	
分解禁止	禁　止	接触禁止	強　制	電源プラグを抜け

警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

水にぬらさない

本機に水が入ったりしないよう、また、ぬらさないようにご注意ください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

ラック総積載荷重は 180 kg 以下とする

ラック上部・下部に収納するそれぞれの機器は 25 kg 以下、天板積載荷重は 30 kg 以下、かつ総積載荷重は 180 kg 以下にしてください。
この重量を超えると、ラックが破損して、けがの原因となります。

強　制

万一、異常が起きたら

次の場合、主電源（分電盤のブレーカー）を切り、販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

- 煙が出ている、変なにおいがするとき
- 内部に水や異物が入ったとき
- 電源コードが傷んだとき（心線の露出、断線など）

電源プラグを抜け

内部を開けない、改造しない

内部には電圧の高い部分があり、ケースを開けたり、改造したりすると、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

分解禁止

内部に異物を入れない

本機の通風口などから内部に金属類や燃えやすいものなど、異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

雷が鳴ったらさわらない

雷が鳴り出したら、電源プラグやアンテナ線にはさわらないでください。
感電の原因となります。

接触禁止

⚠ 注意

誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

通風口をふさがない

通風口をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

禁　止

工事は販売店に相談する

アンテナ工事は、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。
適切な工事を行わないと、アンテナが倒れて、感電・けがの原因となることがあります。

強　制

製品の上に乗らない

本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。
倒れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。

禁　止

システム構成

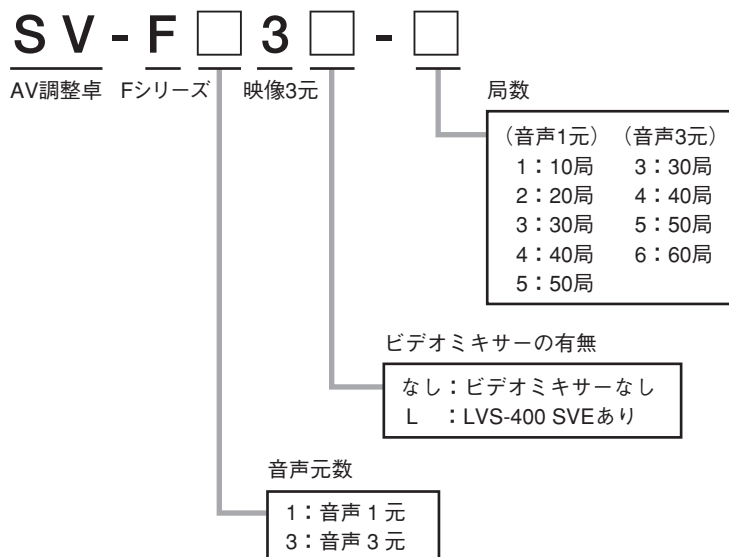
■ システム構成表

このAV調整卓は、組み合わせ仕様により、18種類のシステム品番があり、構成機器が異なります。
音声1元または音声3元の基本構成と、局数による構成機器を組み合わせています。

※ 表中の数値は収納台数です。

［システム品番の説明］

システム品番は、音声1元および3元のシステムにある基本構成の品番と局数表示を組み合わせたものです。システムに含まれる品番にしたがって、右に示すとおり付けられています。

（例）SV-F33-5は、音声3元50局、ビデオミキサーなしのシステムです。

● 音声1元のシステム

［基本構成］

収納機器品番・品名		SV-F13	SV-F13L
WR-400	木製ラック	1	
C-LC072	7.5型液晶モニター	3	
Q-AV400AP2	アクセサリーパネル	1	
NXD-1000VI SVF	タッチパネル	1	
NI-2100 SVF	インテグレートコントローラー	1	
LVS-400 SVE	ビデオミキサー	0	1
WR-400BK2	ブランクパネル（LVS-400 SVEを使用しないとき）	1	0
D-901	デジタルミキサー	1	
C-MX168	16×8ビデオマトリクススイッチャー	1	
DJ-031	デスク型用ジャンクションパネル10局	1	
ML-301B*	メロディクス	1	
PD-1130	パワーディストリビューター	1	

＊チャイム以外の音源が必要な場合は、ML-1000をお使いください。

［局数による構成］

収納機器品番・品名		-1	-2	-3	-4	-5
AV-400CP	コントロールパネル10局（受注生産）	1	0	0	0	0
AV-400CP2	コントロールパネル20局（受注生産）	0	1	0	0	0
AV-400CP3	コントロールパネル30局（受注生産）	0	0	1	0	0
AV-400CP4	コントロールパネル40局（受注生産）	0	0	0	1	0
AV-400CP5	コントロールパネル50局（受注生産）	0	0	0	0	1
DJ-021	デスク型用ジャンクションパネル増設10局	0	1	2	3	4

● 音声３元のシステム

［基本構成］

収納機器品番・品名		SV-F33	SV-F33L
WR-400	木製ラック	1	
C-LC072	7.5型液晶モニター	3	
Q-AV400AP2	アクセサリーパネル	1	
NXD-1000VI SVF	タッチパネル	1	
NI-2100 SVF	インテグレートコントローラー	1	
LVS-400 SVE	ビデオミキサー	0	1
WR-400BK2	ブランクパネル（LVS-400 SVEを使用しないとき）	1	0
D-901	デジタルミキサー	2	
C-MX168	16×8ビデオマトリクススイッチャー	1	
DJ-031	デスク型用ジャンクションパネル10局	3	
ML-301B＊	メロディクス	1	
PD-1130	パワーディストリビューター	1	

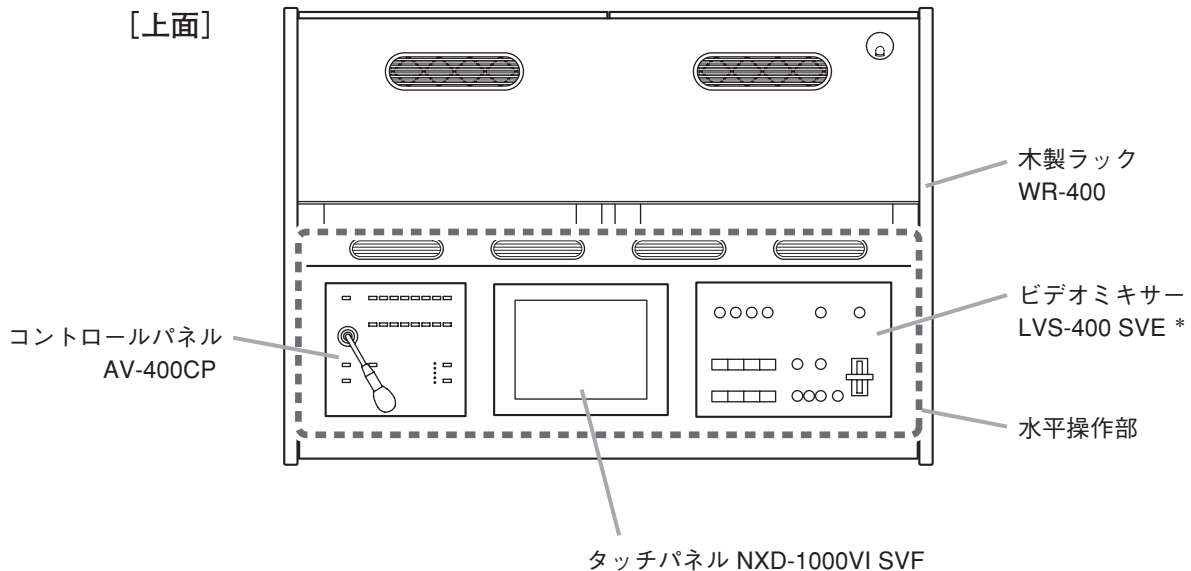
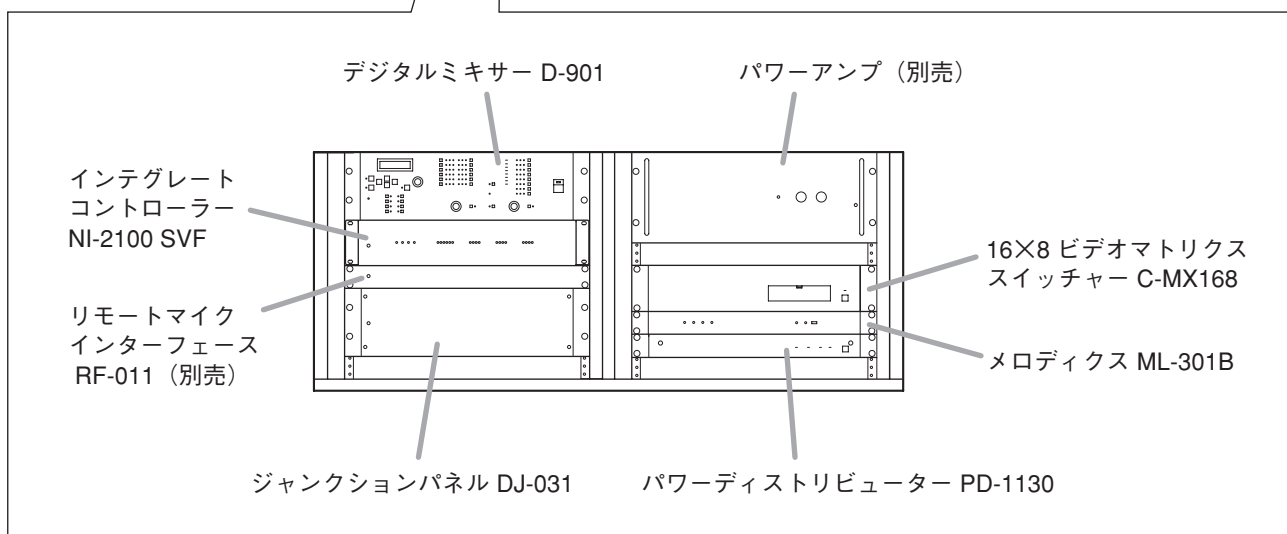
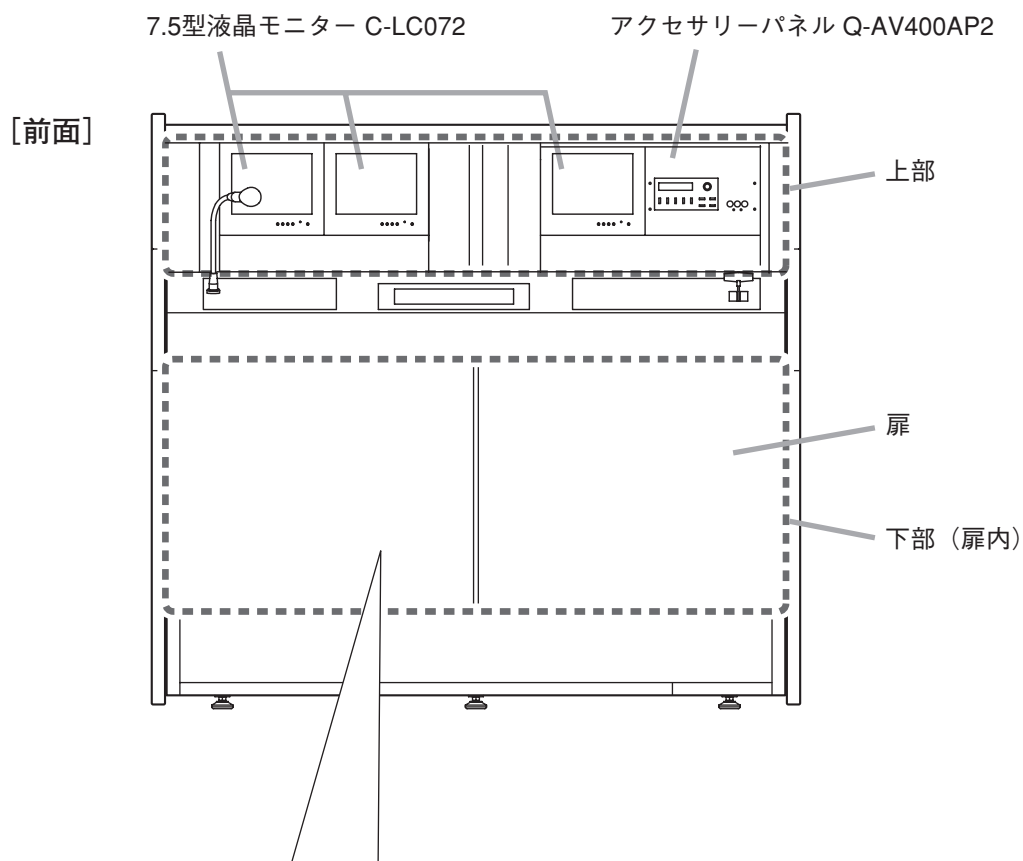
＊チャイム以外の音源が必要な場合は、ML-1000 をお使いください。

［局数による構成］

収納機器品番・品名		-3	-4	-5	-6
AV-400CP3	コントロールパネル30局（受注生産）	1	0	0	0
AV-400CP4	コントロールパネル40局（受注生産）	0	1	0	0
AV-400CP5	コントロールパネル50局（受注生産）	0	0	1	0
AV-400CP6	コントロールパネル60局（受注生産）	0	0	0	1
DJ-021	デスク型用ジャンクションパネル増設10局	0	1	2	3

■ 機器構成例

● 音声1元10局のとき

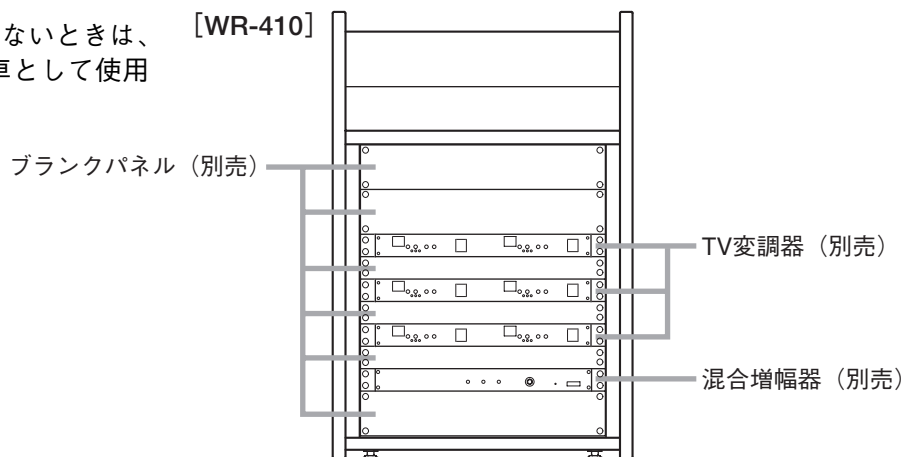
図はSV-F13L-1の例で、タッチパネル、ビデオミキサーともに使用するシステムです。
ビデオミキサーを使わないシステムの場合は、その部分にブランクパネルが付いています。
上部および水平操作部のコントロールパネル、タッチパネルなど各収納機器の位置は、全機種共通です。

＊ LVS-400 SVEを使用しないシステムの場合は、ブランクパネル WR-400BK2 が付いています。

メ　モ

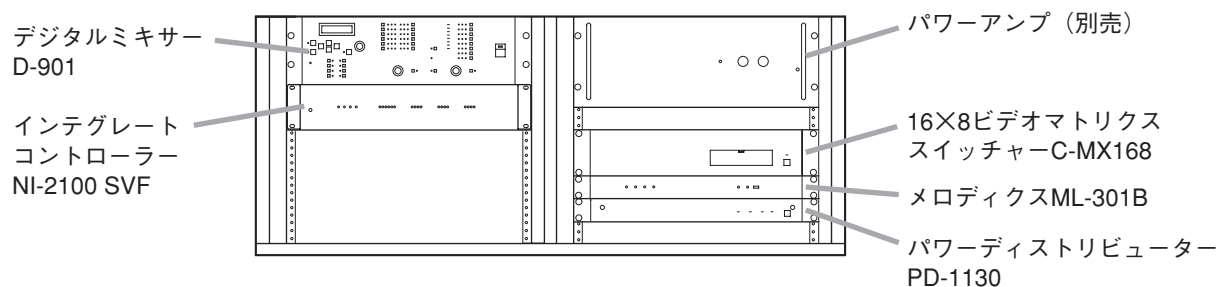
木製ラック WR-400 に収納しきれないときは、別売の木製ラック WR-410 が袖卓として使用できます。

［WR-410］

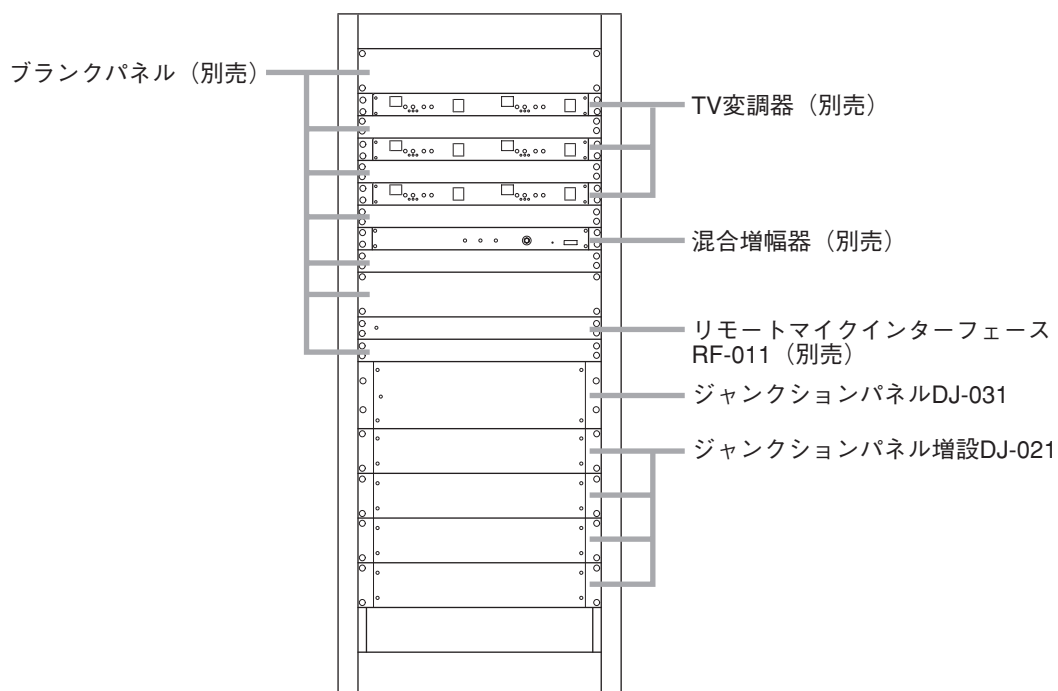
ブランクパネル（別売）

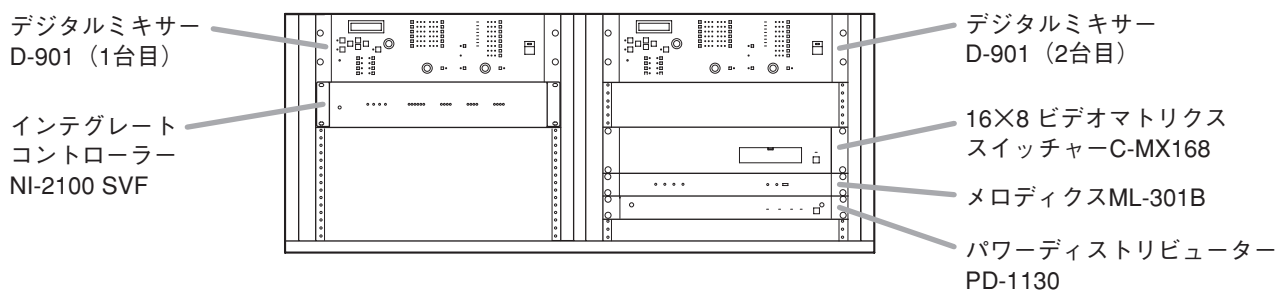
TV変調器（別売）

混合増幅器（別売）

● 音声1元50局のとき

木製ラック WR-400 の上部および水平操作部に収納される機器の位置は、音声 1 元 10 局のときと同様です。
（☞ P. 9「上部」、☞ P. 8「水平操作部」）

［WR-400 下部（扉内）］

［CR-273］

木製ラック WR-400 に収納しきれない機器は、別売のキャビネットラック CR-273 を追加して使用することができます。

● 音声3元30局のとき

木製ラック WR-400 の上部および水平操作部に収納される機器の位置は、音声 1 元 10 局のときと同様です。
（☞ P. 9「上部」、☞ P. 8「水平操作部」）

［WR-400 下部（扉内）］

［CR-413］

木製ラック WR-400 に収納しきれない機器は、別売のキャビネットラック CR-413 を追加して使用することができます。

ブランクパネル（別売）
パワーアンプ（別売）
TV変調器（別売）
混合増幅器（別売）
リモートマイクインターフェース
RF-011（別売）
ジャンクションパネルDJ-031

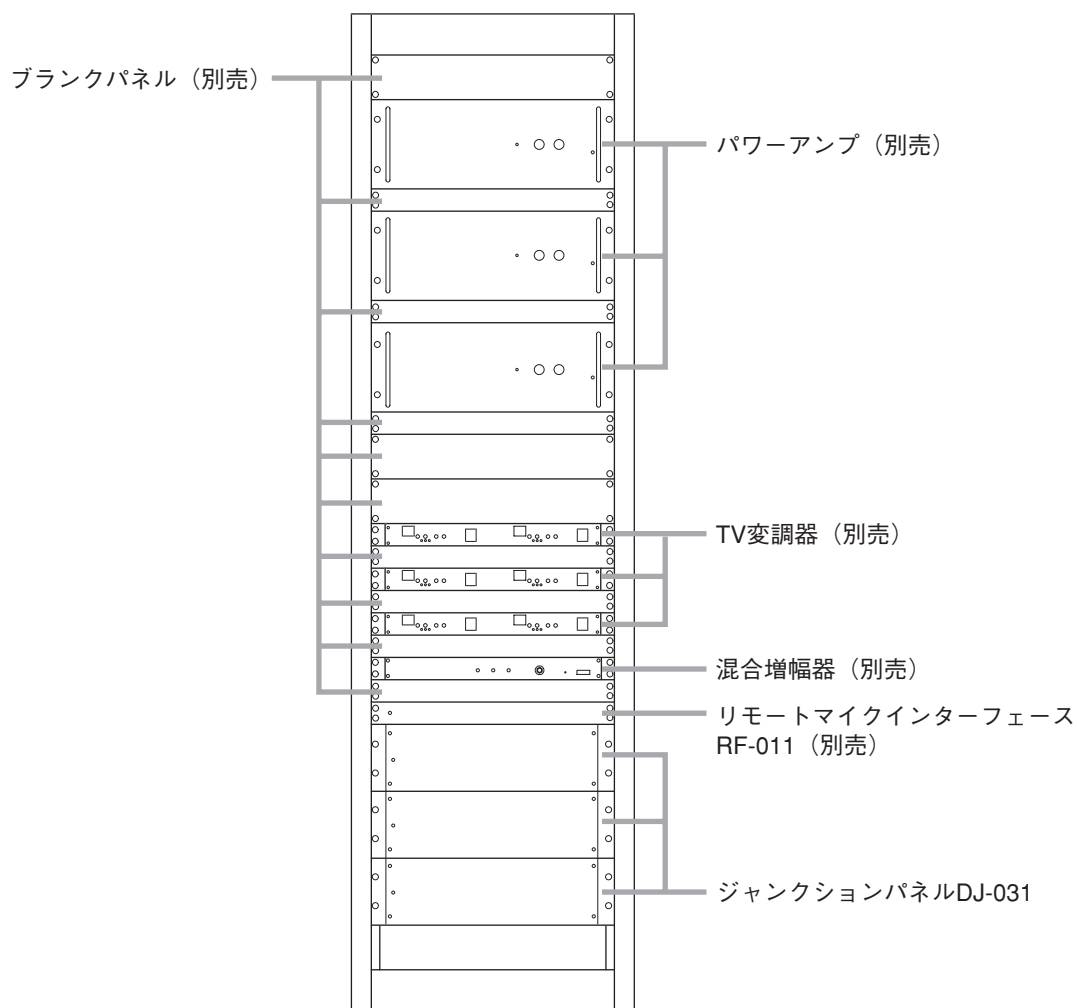
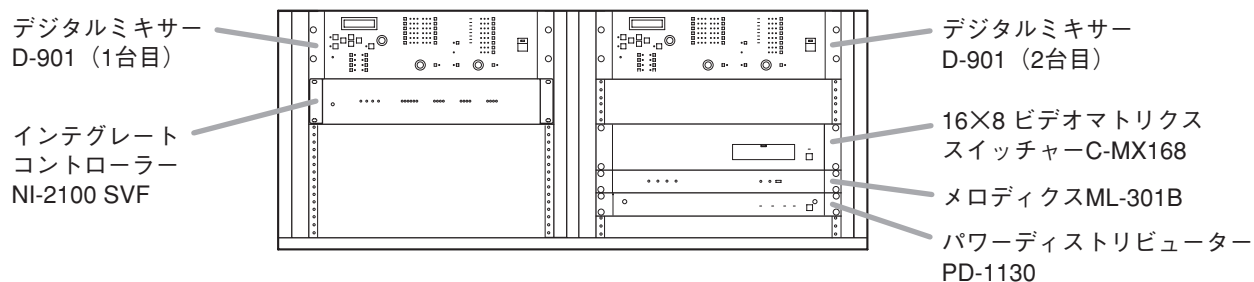
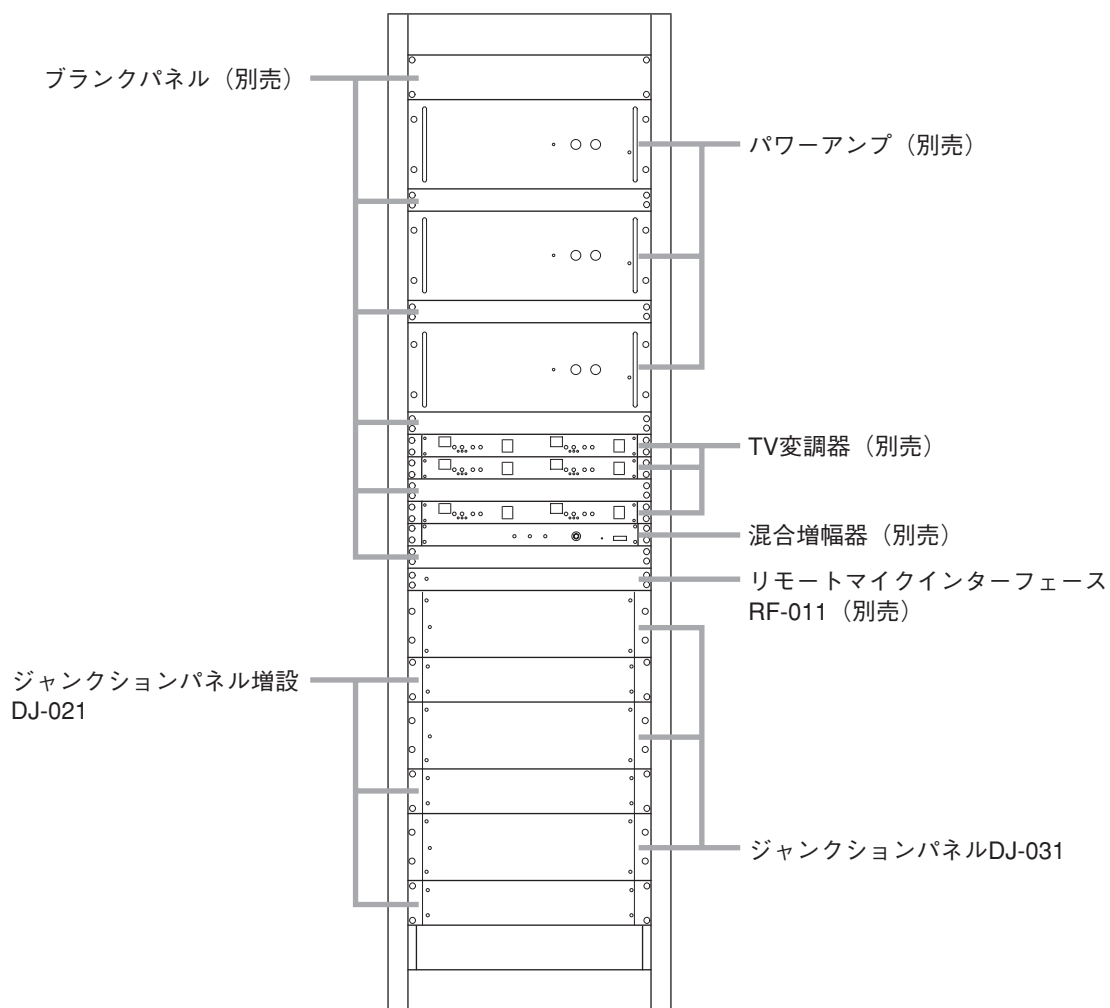
● 音声3元60局のとき

木製ラックWR-400の上部および水平操作部に収納される機器の位置は、音声1元10局のときと同様です。
（☞ P. 9「上部」、☞ P. 8「水平操作部」）

［WR-400下部（扉内）］

［CR-413］

木製ラックWR-400に収納しきれない機器は、別売のキャビネットラックCR-413を追加して使用することができます。

ブランクパネル（別売）
パワーアンプ（別売）
TV変調器（別売）
混合増幅器（別売）
リモートマイクインターフェース
RF-011（別売）
ジャンクションパネル増設
DJ-021
ジャンクションパネルDJ-031

概　要

● **SV-F13**

1元音声放送と3元映像放送が行える総合カラーAV調整卓です。
教育番組の再放送、テレビカメラを使用した自主番組の制作、DVD（ビデオ）への録画やダビングなど、豊かな視聴覚教育を行うことができます。また、見やすく操作性のよい液晶タッチパネルを採用しています。

● **SV-F13L**

1元音声放送と3元映像放送が行える総合カラーAV調整卓です。
教育番組の再放送、テレビカメラを使用した自主番組の制作、DVD（ビデオ）への録画やダビングなど、豊かな視聴覚教育を行うことができます。ビデオミキサーを搭載していますので、ワイプ／ミックス／インサートなどの特殊効果をかけることができます。また、見やすく操作性のよい液晶タッチパネルを採用しています。

● **SV-F33**

3元音声放送と3元映像放送が行える総合カラーAV調整卓です。
教育番組の再放送、テレビカメラを使用した自主番組の制作、DVD（ビデオ）への録画やダビングなど、豊かな視聴覚教育を行うことができます。また、見やすく操作性のよい液晶タッチパネルを採用しています。

● **SV-F33L**

3元音声放送と3元映像放送が行える総合カラーAV調整卓です。
教育番組の再放送、テレビカメラを使用した自主番組の制作、DVD（ビデオ）への録画やダビングなど、豊かな視聴覚教育を行うことができます。ビデオミキサーを搭載していますので、ワイプ／ミックス／インサートなどの特殊効果をかけることができます。また、見やすく操作性のよい液晶タッチパネルを採用しています。

特　長

- ワンタッチでアナウンスマイクから全スピーカーに一斉放送ができます。
- 3台の小型カラーモニターで、入力映像や放送状態をモニターできます。
- AM、FM各5局までメモリーでき、ワンタッチで選局可能なラジオチューナーを装備しています。
- 音声放送設定および映像放送設定は、タッチパネルを使用して16個のプリセットボタンに登録することができ、通常の操作は、このプリセットボタンを押すだけで行えます。
- 別売のリモートマイク RM-1200およびリモートマイクインターフェース RF-011を使用することにより、離れたところからの放送ができます。（RF-011、1台につき最大4台）
- 別売のプログラムタイマー TT-104Bを組み合わせることにより、時報チャイム放送ができます。
- 別売のワイヤレスチューナー WT-1824を組み合わせることにより、ワイヤレスマイクを最大4本追加して使用できます。
- 専用木製ラックは、シックハウスにかかわる基準を満たした木材を使用しています。

［**SV-F13L、SV-F33Lのみ**］

- ビデオミキサーで、ワイプ／ミックス／インサートなどの特殊効果をかけられます。

使用上のご注意

● 電源コードの取り扱いについて（D-901、C-LC072、ML-301B、C-MX168 に適用）

付属の電源コードは、各機器の専用品です。それ以外の機器に使用しないでください。

● システムの電源を入れるとき

コントロールパネル AV-400CP シリーズの電源表示灯が点滅していることを確認してから電源スイッチを押してください。
電源表示灯が消灯しているときは、主電源（分電盤のブレーカー）を「入」にした後、しばらく待って（60 秒程度）電源表示灯が点滅を始めてから電源スイッチを押してください。

● タッチパネルについて

タッチパネルは指で操作してください。
爪で強くこすったり、先の硬くとがったもの（シャープペンシル、ボールペン、カッターナイフなど）で傷つけないようにしてください。タッチパネルの故障の原因となります。タッチパネルは、指などによるわずかな圧力を感知して動作しますので、表面に重い物を載せたり、無理に強い力で押さえつけないでください。タッチパネルの誤動作や故障の原因となります。

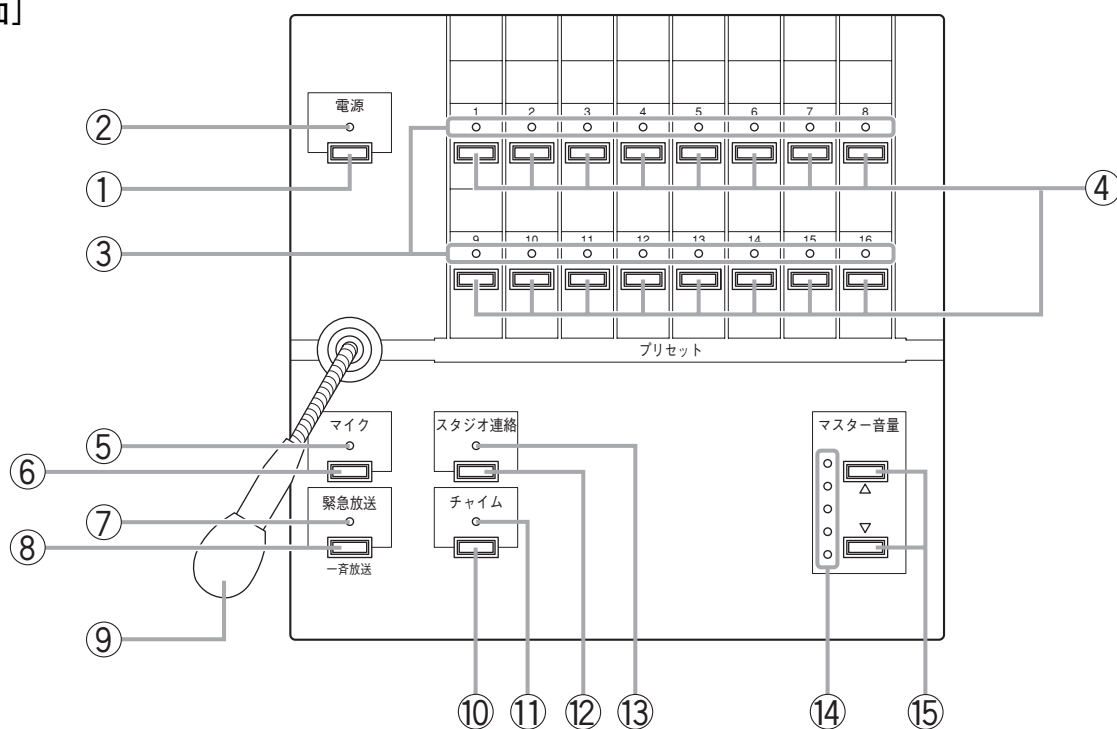
● お手入れの方法

機器を清掃するときには、必ず主電源（分電盤のブレーカー）を切ってから、乾いた布でふいてください。
また、ひどい汚れは中性洗剤をしみこませた布を使用してください。ベンジン・シンナー・化学ぞうきんなどは絶対に使用しないでください。変形や変色の原因になります。

各部の名称とはたらき

■ コントロールパネル AV-400CP シリーズ

AV 調整卓用のコントロールパネルです。
ワンタッチでアナウンスマイクから全スピーカーに放送できる一斉放送ボタンがあります。
音声放送設定および映像放送設定は、16 個のプリセットボタンに登録できます。
通常放送は、このプリセットボタンとマイク入／切ボタン（音声放送のとき）を押すだけで行えます。

［前面］

① 電源スイッチ

システムの電源を入／切します。
このスイッチを切っても、主電源（分電盤ブレーカー）が「入」になっているときは、本システムは通電しており、スタンバイ状態です。

② 電源表示灯

システムの電源が入っているときに点灯します。
電源スイッチを切った状態でも主電源（分電盤ブレーカー）が「入」になっているときはこの表示灯が点滅し、システムのスタンバイ状態を表します。

③ プリセット表示灯（1 ～ 16）

選択されたプリセットが呼び出されると点灯します。プリセットボタン④を押してからプリセットの呼び出しが完了するまで点滅します。

④ プリセットボタン（1 ～ 16）

あらかじめ設定した状態（プリセット）を呼び出します。

⑤ マイク表示灯

マイクボタン⑥を押すと点灯します。
もう一度押すと、消灯します。

⑥ マイク入／切ボタン

アナウンスマイク⑨で音声放送を行うときにこのボタンを押すと、マイクが入ります。
もう一度押すと、マイクが切れます。

⑦ 一斉放送表示灯

一斉放送ボタン⑧を押すと点灯します。

⑧ 一斉放送ボタン（一斉放送／緊急放送）

押すと、アナウンスマイク⑨からすべてのスピーカーへ一斉に放送できます。このとき、演奏機器などからの音はすべて消え、アナウンスマイクからの放送が優先されます。

⑨ アナウンスマイク

音声放送を行うときに使用します。

⑩ チャイムボタン

押すと、チャイムの放送ができます。
チャイムは、上り 4 音です。

⑪ **チャイム表示灯**
チャイムボタン⑩を押すと点灯し、チャイムが鳴り終わると消灯します。

⑫ **スタジオ連絡ボタン**
スタジオまたはアナウンスブースへの連絡に使用します。ボタンを押している間だけアナウンスマイク⑨で通話できます。

⑬ **スタジオ連絡表示灯**
スタジオ連絡ボタン⑫を押している間点灯します。

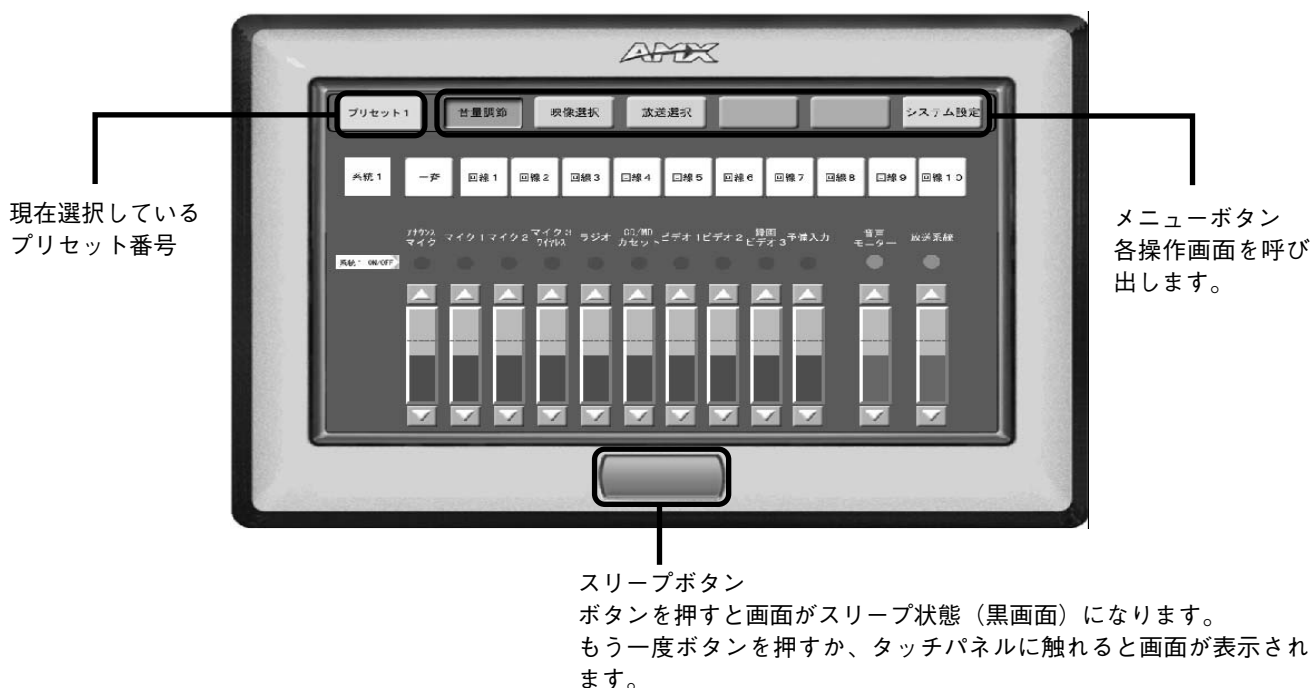
⑭ **マスター音量表示灯**
全体の音量を5つの表示灯で表します。
すべて点灯しているとき音量が最大、すべて消灯しているとき音量が最小です。

⑮ **マスター音量ボタン**
全体の放送音量を調節します。
押すごとに音量が変化します。押し続けると、音量を連続して調節できます。
▲：このボタンを押すと、音量が上がります。
▼：このボタンを押すと、音量が下がります。

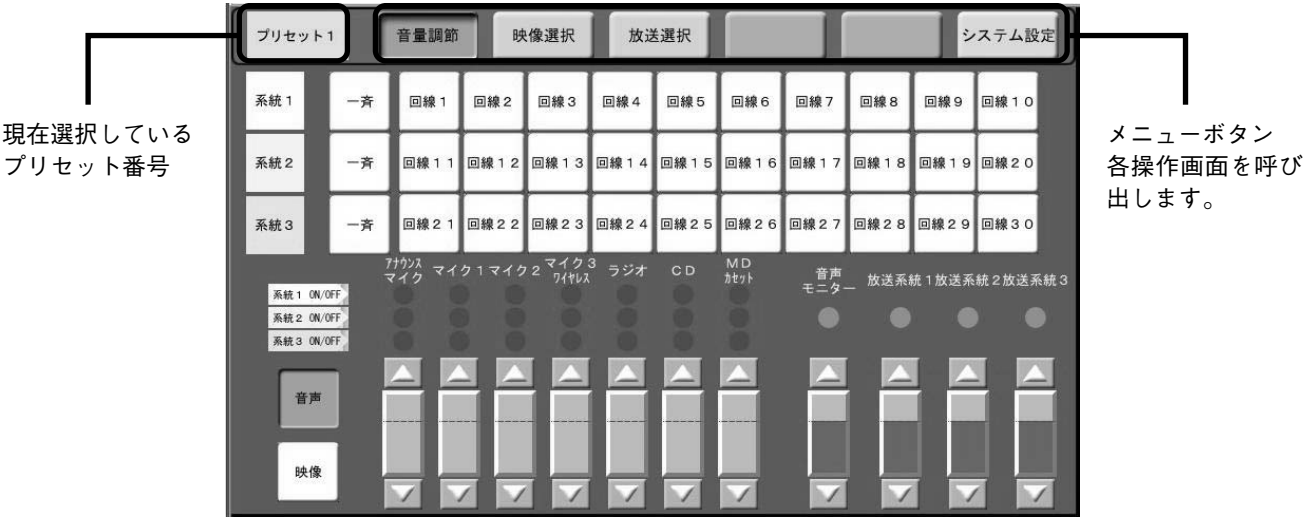
■ タッチパネル NXD-1000VI SVF

AV調整卓用の液晶タッチパネルです。
WVGA（800×480）表示のタッチパネル付きカラーアクティブマトリクス液晶を使用しています。

［初期画面（音声1元10局の場合）］

スリープボタン
ボタンを押すと画面がスリープ状態（黒画面）になります。
もう一度ボタンを押すか、タッチパネルに触れると画面が表示されます。

メ　モ

タッチパネルを操作しないまま30分（初期設定）放置すると、スリープ状態（黒画面）になります。
この場合もスリープボタンを押すか、タッチパネルに触れると画面が表示されます。

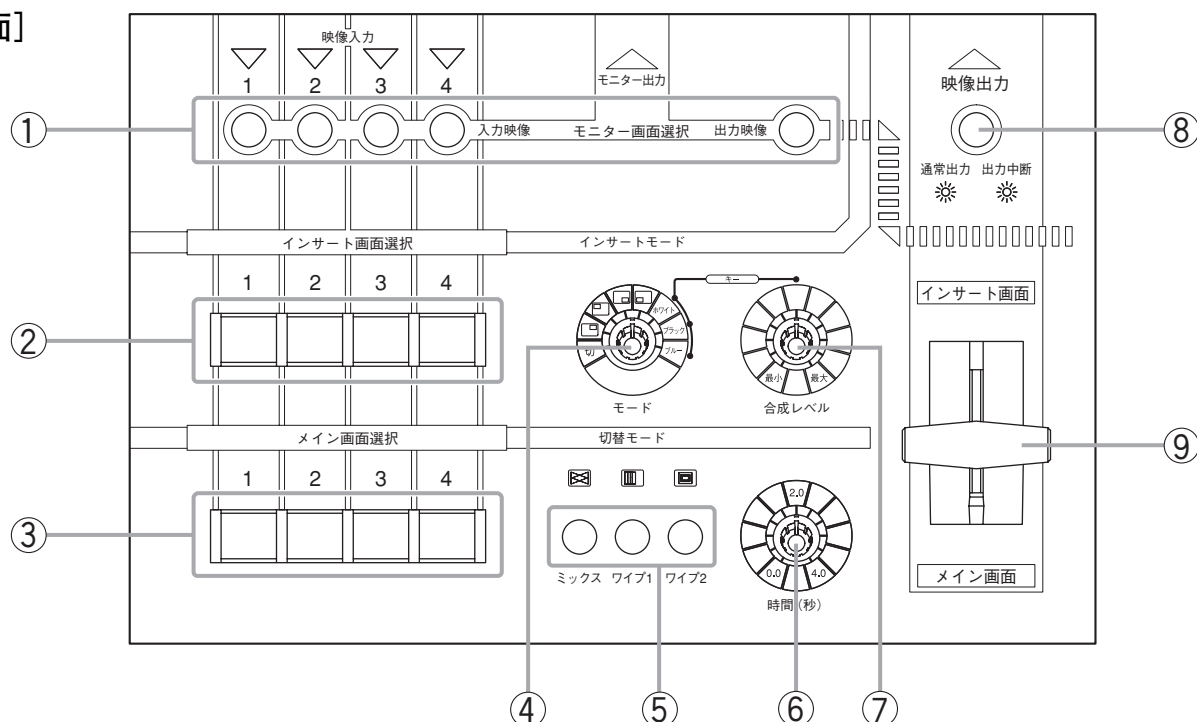
［初期画面（音声3元30局の場合）］

［メニューボタン］

音量調節 （☞ P. 28）	放送先（スピーカー回線）の選択と音量の調節を行います。
映像選択 （☞ P. 30）	どの映像をどこに送るかを選択します。 ビデオ・予備入力など音声が伴う映像については、入力・出力の音量調節もできます。
放送選択 （☞ P. 31）	どの音源をどこに送るかを選択します。 入力・出力の音量調節もできます。
システム設定 （☞ P. 33）	システムの設定を行います。画面に入るにはパスワードが必要です。 詳しくは、別冊の設置説明書をお読みください。

■ ビデオミキサー LVS-400 SVE（SV-F13L、SV-F33Lのみ）

AV調整卓用のビデオミキサーです。
ワンタッチでの入力映像切り換えや暗い場所でも操作しやすい自照式のガード付き大型ボタンの採用など操作性を考慮しています。また、フルデジタルの内部処理により安定したDV相当の高画質を実現しています。さらにTバー型ビデオフェーダーによる緻密なミキシング／合成にも対応できます。

［前面］

① モニター画面選択ボタン

映像入力ボタンを押して選択すると、入力されている映像を外部のモニター（別売）に表示させることができます。出力映像ボタンを押すと、編集された映像を確認できます。
標準システムでは、映像入力1にはビデオ1、入力2にはカメラ1、入力3にはカメラ2が接続されています。
※ 映像入力4は、空きになっています。

② インサート画面選択ボタン

入力映像1～4の中から、メイン画面にインサートする映像を選択します。選択された映像は、ビデオフェーダー⑨を使って、メイン画面に挿入されます。

③ メイン画面選択ボタン

入力映像1～4の中から、編集元の映像を選択します。映像切り換えや映像インサートは、このメイン画面に対して行います。

④ インサートモード選択つまみ

メイン画面にインサートする映像のインサートエフェクト（合成効果）を選択します。

⑤ 切替モード選択ボタン

メイン画面の映像を切り換えるときのトランジション効果*をミックス、ワイプ1またはワイプ2から選択します。（☞ P. 45）

- ミックス：2つの映像が混ざりながら切り換わります。（オーバーラップ）
- ワイプ1：左からワイプで映像が切り換わります。
- ワイプ2：中央から長方形のワイプで映像が切り換わります。

* シーンとシーンの切り換えに使用する映像効果

⑥ 時間設定つまみ

メイン映像の自動切換時間を調節します。

⑦ キー合成レベル調節つまみ

インサートモード選択つまみ④で選択された「ホワイト」、「ブラック」、または「ブルー」の色とメイン画面との合成の度合いを調節します。これら以外のインサートモードを選択したときは、このつまみは働きません。（☞ P. 47）

⑧ 映像出力ON/OFFボタン

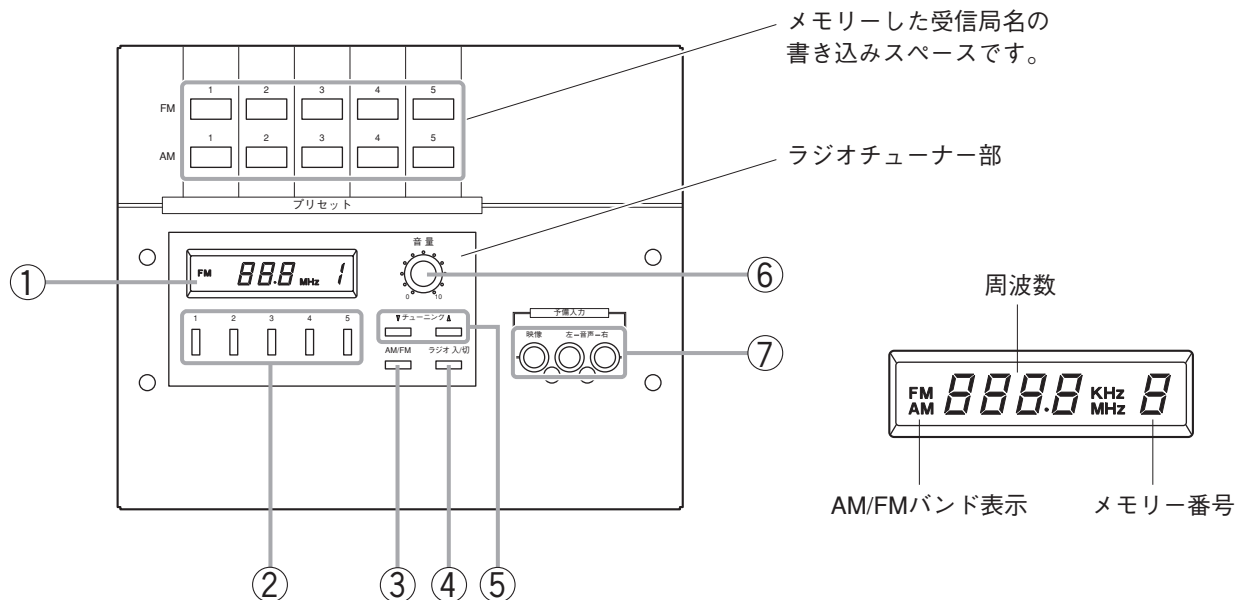
ビデオミキサーLVS-400 SVEで編集された映像の出力をONまたはOFFにします。押すごとに、ONとOFFが切り換わります。ONのときはボタンが点灯し、OFFのとき（黒画面時）は点滅します。

⑨ ビデオフェーダー

「メイン画面」側から「インサート画面」側に倒すことにより、手動で映像をインサートします。

■ アクセサリーパネル Q-AV400AP2

AV 調整卓用のアクセサリーパネルです。
AM、FM 各 5 局までメモリーでき、ワンタッチで選局可能なラジオチューナー付きです。また、映像と音声（ステレオ）の予備入力端子がついています。

［前面］

① **周波数／メモリー番号表示部**
AM/FM バンド、受信周波数、およびメモリー番号を表示します。この表示が消えているとき、ラジオは動作していません。

② **メモリー／選局ボタン**
AM、FM を各 5 局メモリーできます。
押すと、記憶されている放送局の周波数とメモリー番号が、周波数／メモリー番号表示部①に表示されます。1.5 秒以上押し続けると、表示部①に表示されている周波数が記憶され、同時に記憶したメモリー番号も表示されます。

③ **AM ／ FM バンド切換ボタン**
受信するバンドを切り換えるときに押します。
押すたびに AM 放送と FM 放送が切り換わります。

④ **ラジオ入／切ボタン**
押すと、ラジオが動作し、周波数／メモリー番号表示部①に表示が現れます。もう一度押すと、ラジオが切れます。

⑤ **チューニングボタン**
放送局を選局するときに押します。
▼ボタンを押すと、AM 放送は 9 kHz ずつ、FM 放送は 0.1 MHz ずつ自動的に受信周波数が下がっていき、放送を受信すると止まります。
選局中にもう一度 ▼ボタンを押すと、選局を中止します。
同様に、▲ボタンを押すと、AM 放送は 9 kHz ずつ、FM 放送は 0.1 MHz ずつ自動的に受信周波数が上がっていき、放送を受信すると止まります。
選局中にもう一度 ▲ボタンを押すと選局を中止します。

⑥ **ラジオ音量調節つまみ**
ラジオの音量を調節します。
右に回すと、音量が大きくなります。

ご注意
最小にしていると、タッチパネルで音量を上げても音が鳴りません。あらかじめ適当な音量に調節しておいてください。

⑦ **予備入力端子**
小型ビデオカメラやポータブル MD、その他映像機器、演奏機器などを接続します。

● ラジオ受信のしかた

1 **ラジオ入／切ボタンを押して、ラジオを動作させる。**

周波数／メモリー番号表示部が点灯します。

2 **AM／FMバンド切換ボタンを押して、AM放送かFM放送かを選択する。**

押すたびにAM放送とFM放送が切り換わります。

3 **チューニングボタンを押して、聞きたい放送局の周波数に合わせる。**

押すと自動的に周波数が変化し、放送を受信するとその周波数で止まります。

メ　モ

▼ボタンを押すと、AM放送は9 kHzずつ、FM放送は0.1 MHzずつ自動的に受信周波数が下がっていき、放送を受信すると止まります。選局中にもう一度▼キーを押すと、選局を中止します。
同様に、▲ボタンを押すと、AM放送は9 kHzずつ、FM放送は0.1 MHzずつ自動的に受信周波数が上がっていき、放送を受信すると止まります。選局中にもう一度▲キーを押すと、選局を中止します。

4 **ラジオ音量調節つまみで、適当な音量に調節する。**

● 受信周波数のメモリーのしかた

AM放送で5局、FM放送で5局、別々に周波数を記憶させることができます。
記憶させた周波数は、そのメモリー／選局ボタンを押すだけで呼び出すことができます。

ご注意

メモリーの内容は、主電源（分電盤のブレーカー）が切れると約7日で消えます。
ただし、主電源が入っている限り、常にラジオチューナーユニットに電源が供給されるので、メモリーの内容は保持され続けます。

1 **記憶させたい放送局の周波数に設定する。**

1-1 **AM/FMバンド切換ボタンを押して、AM放送かFM放送かを選択する。**

押すたびにAM放送とFM放送が切り換わります。

1-2 **チューニングボタンを押して、聞きたい放送局の周波数に合わせる。**

2 **記憶させたいメモリー／選局ボタンを、表示部にメモリー番号が表示されるまで押す。**

約1.5秒押し続けると表示され、メモリーは完了です。

システム電源の入れかた・切りかた

■ 電源の入れかた

1 電源表示灯が点滅していることを確認する。

消灯しているときは、主電源（分電盤のブレーカー）を入れてください。約60秒後に、電源表示灯が1秒間隔の点滅に変わり、スタンバイ状態になります。タッチパネルの画面はスリープ状態（黒画面）になります。

2 電源スイッチを押して、システムの電源を入れる。

電源表示灯が速い点滅になり、タッチパネルの画面は、起動中の画面になります。

表示灯が点灯に変わり、次の初期画面（音量調節画面）が表示されます。

（音声1元10局の場合）

（音声3元30局の場合）

メ　モ

停電などで電源が落ちた後に電源が復旧した場合は、停電前の状態に自動的に復帰します。

■ 電源の切りかた

電源スイッチを３秒以上押し続けます。

次の確認画面が表示されます。

「終了」を押すと、電源表示灯が速く点滅します。
約10秒かかって、ミキサーなど一部の機器を除くすべての電源が切れ、電源表示灯がゆっくりと点滅します。
（スタンバイ状態）
「キャンセル」を押すと、確認画面が消え、もとの状態に戻ります。

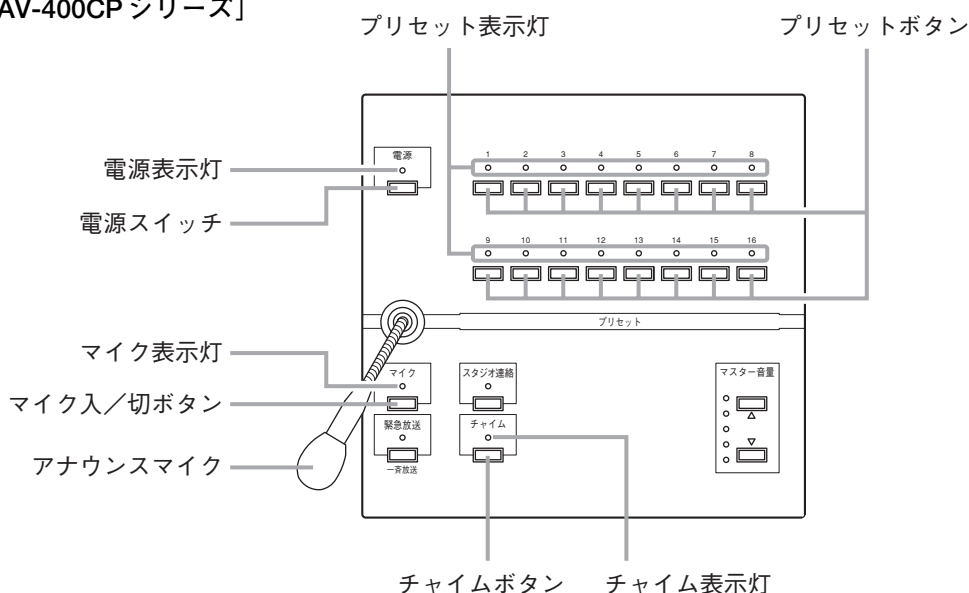
ご注意

システム電源を切ると、ミキサーなど一部の機器を除くすべての機器の電源が切れます。
DVDやCDなどは、電源を切る前に取り出しておいてください。

プリセット放送（音声・映像）のしかた

あらかじめ設定された場所に、簡単な操作で放送ができます。
設定のしかたは、別冊の設置説明書をお読みください。

■ マイク放送のしかた

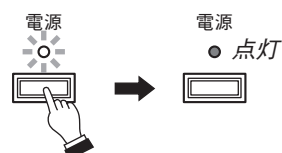
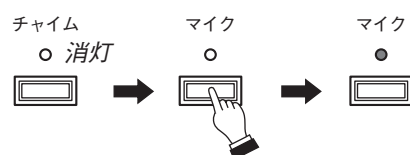
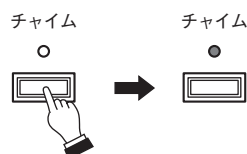
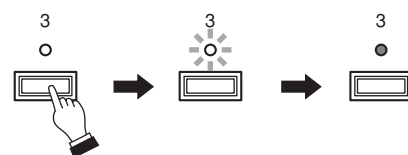
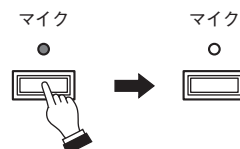
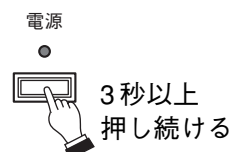
［コントロールパネル AV-400CP シリーズ］

プリセット表示灯
プリセットボタン
電源表示灯
電源スイッチ
マイク表示灯
マイク入／切ボタン
アナウンスマイク
チャイムボタン
チャイム表示灯

1 **電源表示灯が点滅していることを確認する。**
消灯しているときは、主電源（分電盤のブレーカー）を入れてください。

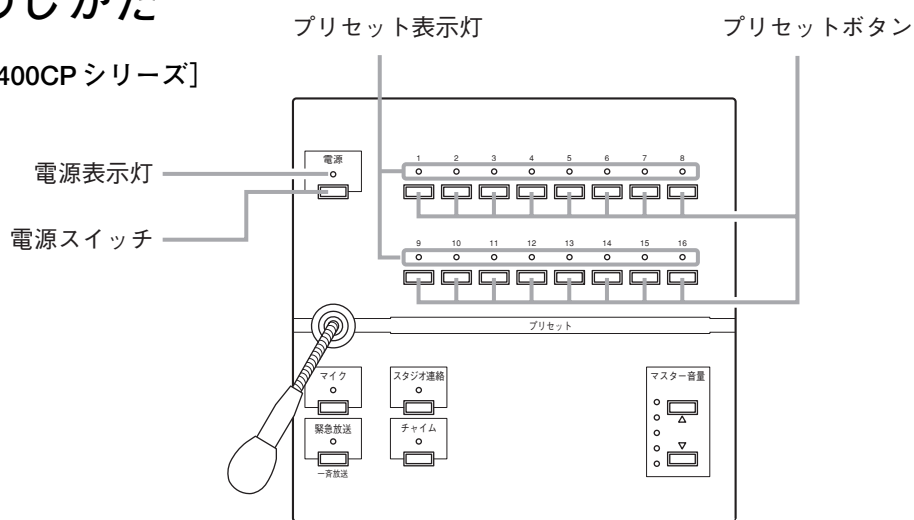
2 **電源スイッチを押して、システムの電源を入れる。**
電源表示灯が点滅から点灯に変わります。

3 **プリセットボタンを押して、あらかじめ設定された放送パターンを選択する。**
選択されたプリセットの表示灯が点滅から点灯に変わると、放送ができます。

4 **チャイムボタンを押して、チャイムを鳴らす。**
チャイムが流れている間、チャイム表示灯が点灯します。

5 **チャイム表示灯が消灯したら、マイク入／切ボタンを押してアナウンスマイクで放送する。**
マイク表示灯が点灯すると、放送できます。

6 **もう一度マイク入／切ボタンを押して、放送を終わる。**
マイク表示灯が消灯します。

7 **電源スイッチを3秒以上押し続ける。**
タッチパネルに終了確認の画面が表示されます。

8 **「終了」を選択し電源を切る。**
電源表示灯が点滅し、スタンバイ状態に戻ります。

■ BGM放送のしかた

［コントロールパネル AV-400CP シリーズ］

プリセット表示灯
プリセットボタン
電源表示灯
電源スイッチ

1 **電源表示灯が点滅していることを確認する。**
消灯しているときは、主電源（分電盤のブレーカー）を入れてください。

2 **電源スイッチを押して、システムの電源を入れる。**
電源表示灯が点滅から点灯に変わります。

3 **プリセットボタンを押して、あらかじめ設定された放送パターンを選択する。**
選択されたプリセットの表示灯が点滅から点灯に変わると、放送ができます。

4 **CDプレーヤーなどの演奏機器を再生する。**
演奏機器の取り扱いについては、各機器に付属の取扱説明書をお読みください。

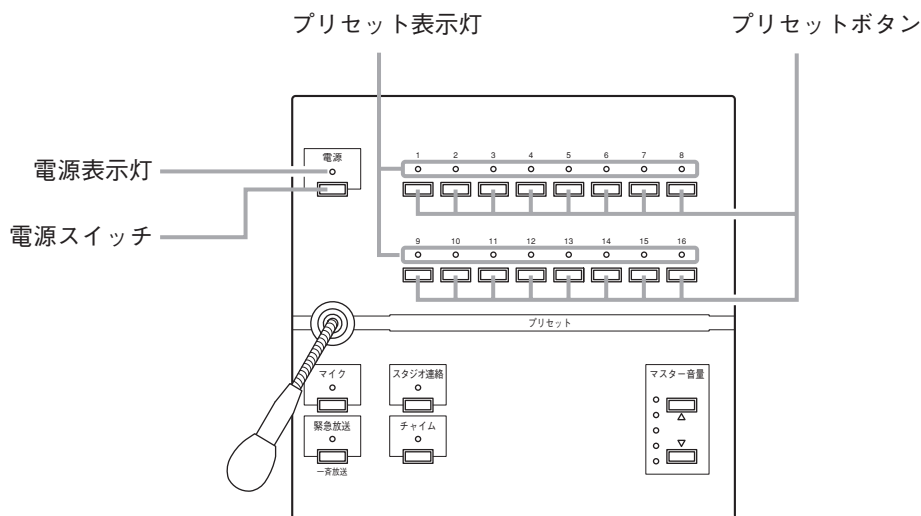
5 **放送が終わったら、演奏機器を停止する。**

ご注意 DVDやCDなどは電源を切る前に取り出しておいてください。

6 **電源スイッチを3秒以上押し続ける。**
タッチパネルに終了確認の画面が表示されます。

7 **「終了」を選択し電源を切る。**
電源表示灯が点滅し、スタンバイ状態に戻ります。

■ 映像放送のしかた

［コントロールパネル AV-400CP シリーズ］

1 電源表示灯が点滅していることを確認する。

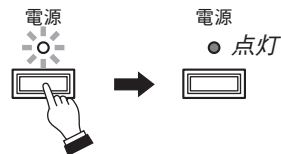
消灯しているときは、主電源（分電盤のブレーカー）を入れてください。

2 電源スイッチを押して、システムの電源を入れる。

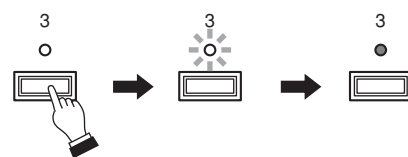
電源表示灯が点滅から点灯に変わります。

電源

電源

点灯

3 プリセットボタンを押して、あらかじめ設定された放送パターンを選択する。

選択されたプリセットの表示灯が点滅から点灯に変わると、放送ができます。

（例）プリセットボタン 3 を選択

4 カメラや DVD プレーヤーなどの映像機器を再生する。

映像機器の取り扱いについては、各機器に付属の取扱説明書をお読みください。

5 放送が終わったら、映像機器を停止する。

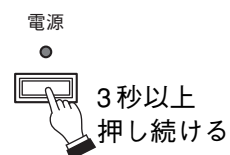
6 電源スイッチを 3 秒以上押し続ける。

タッチパネルに終了確認の画面が表示されます。

電源

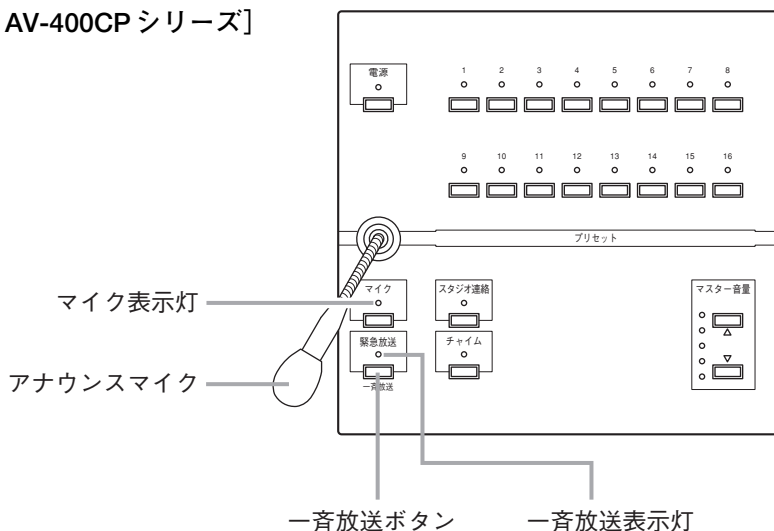
7 「終了」を選択し電源を切る。

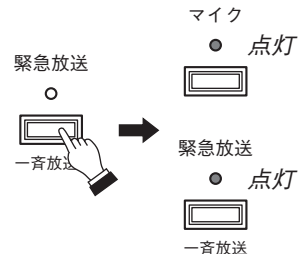
電源表示灯が点滅し、スタンバイ状態に戻ります。

電源

一斉放送のしかた

ボタンひとつで、すべての場所にマイク放送ができます。
システムの電源が切れていても、自動的に電源が入り、短時間で放送できる状態になりますので、緊急時の放送にも使えます。

ご注意　主電源（分電盤ブレーカー）は「入」にしておいてください。
「切」になっているとシステムの電源が入りません。

［コントロールパネル AV-400CP シリーズ］

1 **一斉放送ボタンを押す。**

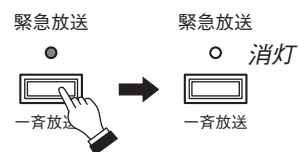
一斉放送表示灯およびマイク表示灯が点灯します。

2 **マイク表示灯が点灯に変わったら、アナウンスマイクで放送する。**

演奏機器などからの音はすべて消え、マイクからの音声のみが出力されます。

メ　モ　一斉放送中でもマイクの入／切ができます。

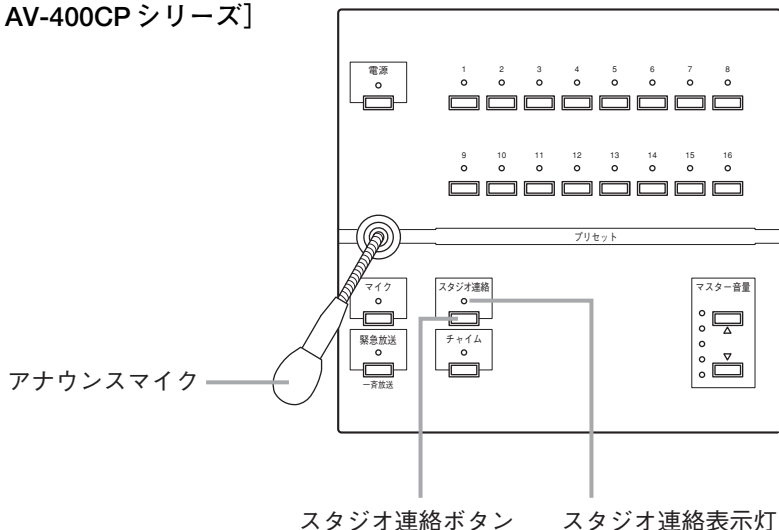
3 **もう一度、一斉放送ボタンを押す。**

マイクが切れ、ボタンを押す前の状態に戻ります。

※ 最初に電源スイッチが切れていた場合は、電源が切れてスタンバイ状態に戻ります。

スタジオ連絡のしかた

アナウンスマイクを使って、スタジオ内の人にスピーカーを通して連絡ができます。

メモ
放送中（マイク放送以外）でもスタジオ連絡を行うことができます。連絡内容は放送には流れません。

［コントロールパネル AV-400CP シリーズ］

※ システム電源が入っていることを確認してください。

1 **スタジオ連絡ボタンを押しながら、アナウンスマイクに向かって話す。**

ボタンを押し続けている間、スタジオ連絡表示灯が点灯し、スタジオに音声を送ることができます。

2 **スタジオ連絡ボタンを離す。**

スタジオ連絡表示灯が消灯し、アナウンスマイクが切れます。

タッチパネルでの操作のしかた

タッチパネルを使用して、どの映像・音声をどこへ放送するかの選択、音量調節などが自由に行えます。
プリセットを呼び出すと、登録された内容を画面で確認できます。呼び出したプリセットをもとに、設定を変更して使うこともできます。
プリセットボタンへの登録のしかたは、別冊の設置説明書をお読みください。

■ 画面の説明

● 音量調節画面

放送回線の選択および入力機器・モニタースピーカー・放送出力の音量を調節します。

［音声 1 元 10 局の場合］

① 放送系統表示
　このシステムの放送系統を表示しています。

② 放送回線選択ボタン
　ボタンを押すと、その回線に放送されます。
　回線は、一斉または回線ごとに選択できます。

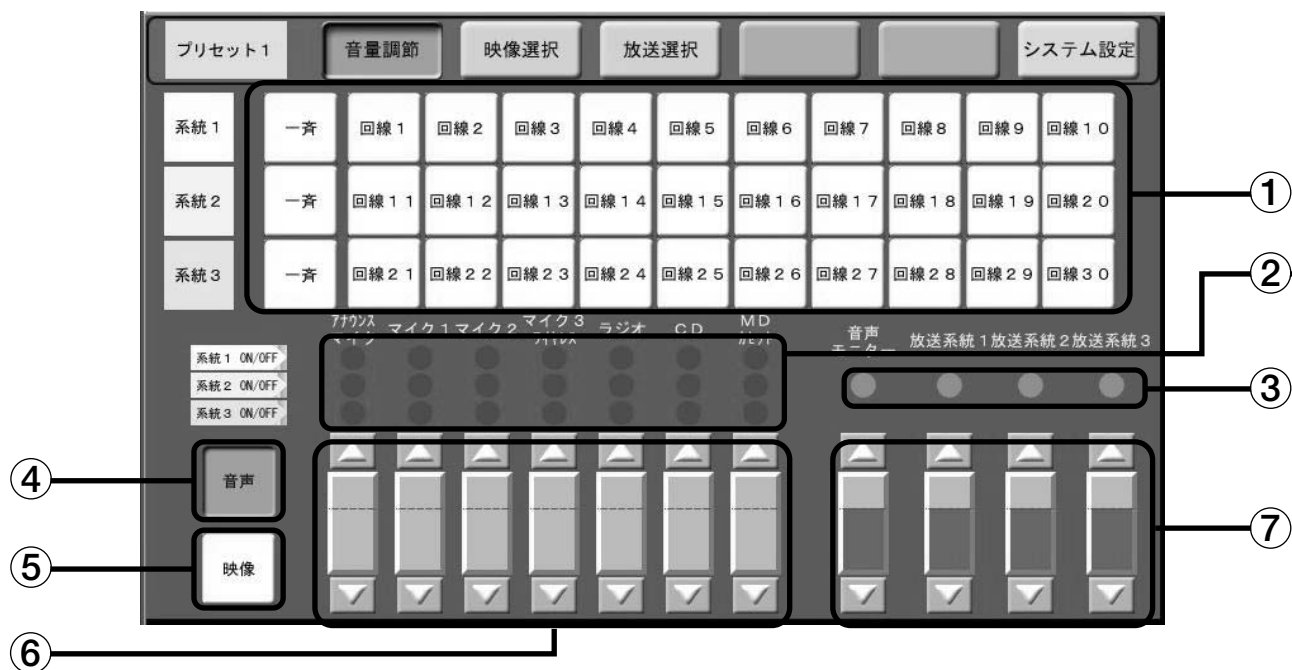
③ 放送音源 ON/OFF ボタン
　入力機器ごとに放送される音源を ON、OFF します。ボタンの色は ON のときは緑色、OFF のときは赤色になります。

④ 音声モニター ON/OFF ボタン
　モニター出力を ON、OFF します。ボタンの色は ON のときは緑色、OFF のときは赤色になります。

⑤ 放送系統 ON/OFF ボタン
　放送出力を ON、OFF します。ボタンの色は ON のときは緑色、OFF のときは赤色になります。

⑥ 入力音量表示／調節ボタン
　各入力機器の音量表示・調節を行います。
　▲または▼ボタンを押すごとに、音量が変化します。押し続けると、音量を連続して調節できます。

⑦ モニター・出力音量表示／調節ボタン
　放送されている音量および音声モニター音量の表示・調節を行います。
　▲または▼ボタンを押すごとに、音量が変化します。押し続けると、音量を連続して調節できます。

［音声３元30局の場合］

① **放送回線選択ボタン**

各放送系統の回線選択ボタンが10局ずつ表示されます。ボタンを押すと、その回線に放送されます。回線は、一斉または回線ごとに選択できます。一斉は各系統（元）ごとの一斉となります。

② **放送音源ON/OFFボタン**

各放送系統の入力機器ごとに放送される音源をON、OFFします。ボタンの色はONのときは緑色、OFFのときは赤色になります。

ご注意

音声３元のシステムでは、各放送系統に対して、映像機器の音声のON/OFFが連動します。この中で放送したくない音源がある場合は、音量を最小にするか、停止状態にしてください。

③ **出力ON/OFFボタン**

モニター出力と各系統の放送出力をそれぞれON、OFFします。ボタンの色はONのときは緑色、OFFのときは赤色になります。

④ **音声ボタン**

押すと、音声機器の音量調節画面に切り換わります。

⑤ **映像ボタン**

押すと、映像機器の音量調節画面に切り換わります。

⑥ **入力音量表示／調節ボタン**

放送系統ごとに、各入力機器の音量表示・調節を行います。

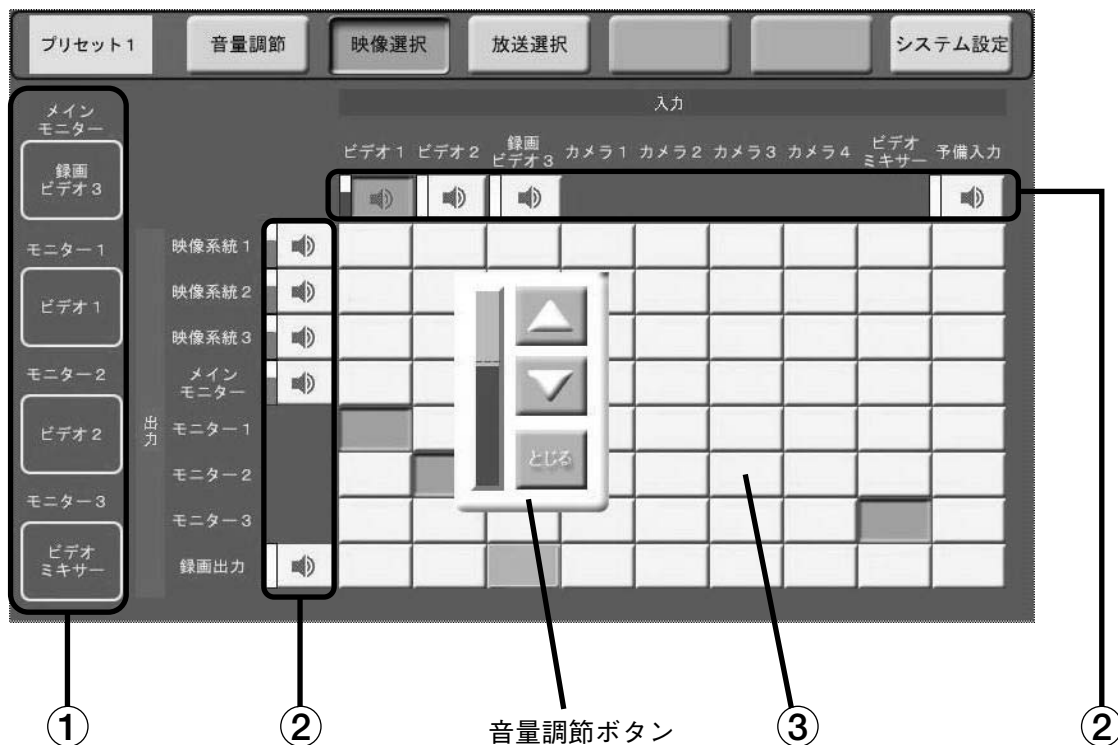
▲または▼ボタンを押すごとに、音量が変化します。押し続けると、音量を連続して調節できます。

⑦ **モニター・出力音量表示／調節ボタン**

放送されている音量および音声モニター音量の表示・調節を行います。

▲または▼ボタンを押すごとに、音量が変化します。押し続けると、音量を連続して調節できます。

● 映像選択画面

どの映像がどの出力先に送られているかを確認・切り換えできます。
映像入力がビデオおよび予備入力のときは、映像と同時に音声も選択された出力先に切り換わります。

① モニター表示

メインモニター、モニター1～3に、それぞれどの映像入力が映し出されているかを表示します。

② 入出力音量ボタン

押すと、音量調節ボタンが表示されます。
▲または▼ボタンを押すごとに、音量が変化します。押し続けると、音量を連続して調節できます。
ボタンの左側に音量レベルが表示されます。

③ 映像入力・出力選択ボタン

どの映像をどの出力先に送るかを選択できます。
入力と出力が交差するボタンを押してください。
ボタンをもう一度押すと、選択が解除されます。
ビデオ1/2、録画ビデオ3、予備入力を、映像系統1/2/3、録画出力、メインモニターに選択したときは、音声も同時に切り換わります。

※ グレーで表示されているボタンは操作できません。

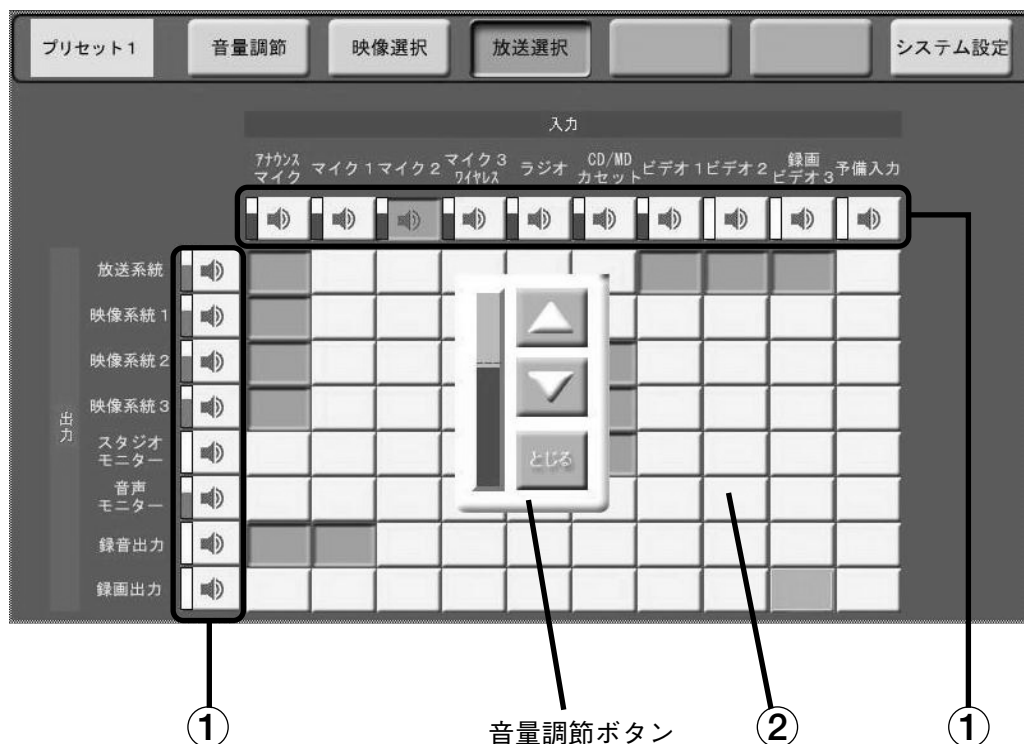
メ　モ

カメラタリー機能

カメラ1/2/3がメインモニターに選択されているとき、AV-400CP後面のカメラタリー端子1/2/3がそれぞれ短絡されます。カメラのオンエアーランプの点灯などに利用してください。

● 放送選択画面

どの音源がどの出力先に送られているかを確認・切り換えできます。入出力の音量調節もできます。

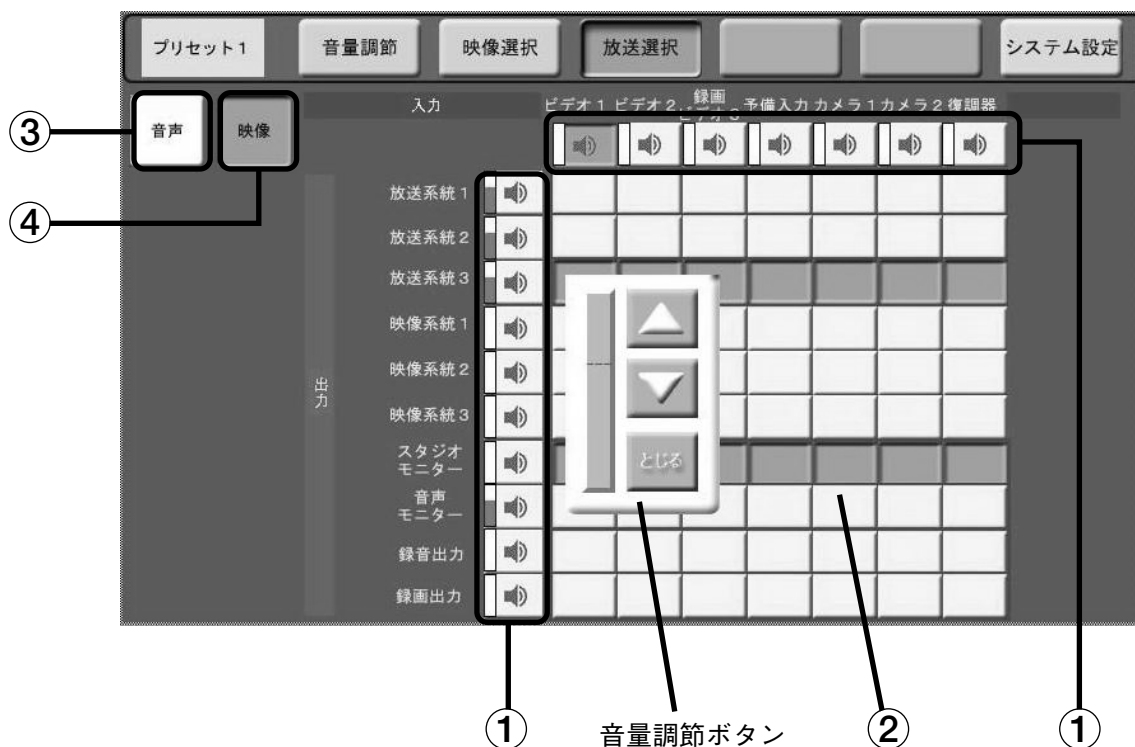
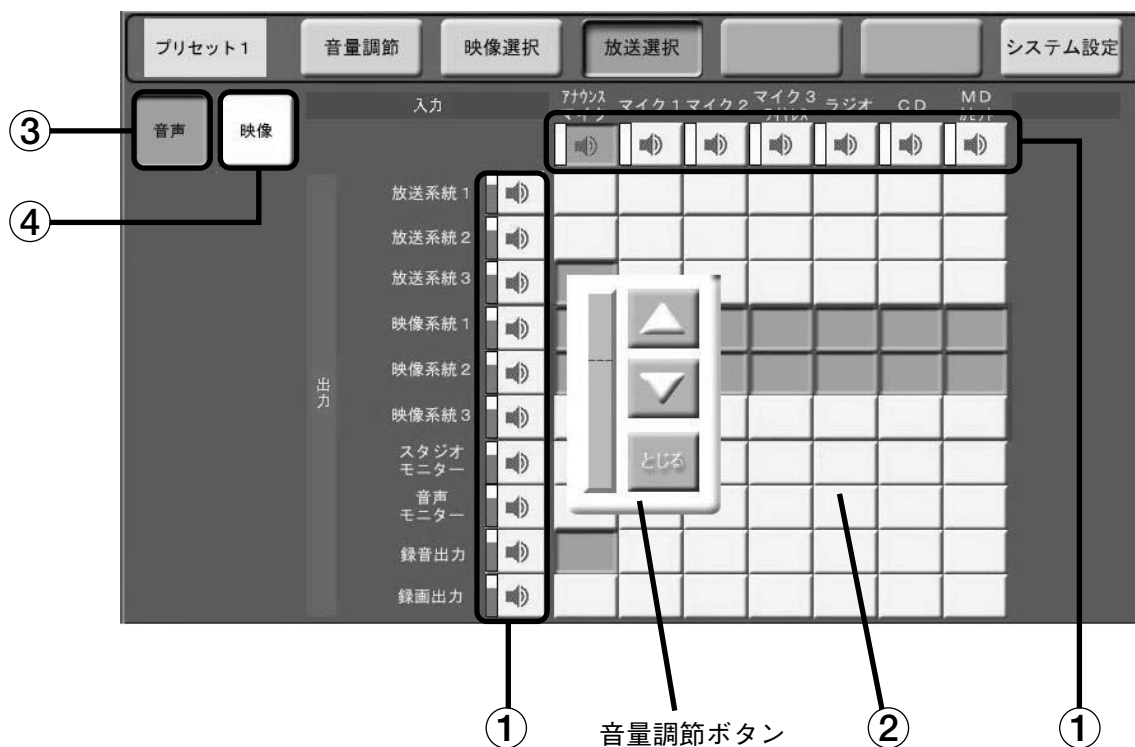
［音声1元10局の場合］

① **入出力音量ボタン**

押すと、音量調節ボタンが表示されます。
▲または▼ボタンを押すごとに、音量が変化します。押し続けると、音量を連続して調節できます。
ボタンの左側に音量レベルが表示されます。

② **音源入力・出力選択ボタン**

どの音源をどの出力先に送るかを選択できます。
入力と出力が交差するボタンを押してください。
ボタンをもう一度押すと、選択が解除されます。
出力先に複数の音源が選択されているときは、ミキシング（混ざって出力）されます。

※ グレーで表示されているボタンは操作できません。

［音声３元30局の場合］

① **入出力音量ボタン**

押すと、音量調節ボタンが表示されます。
▲または▼ボタンを押すごとに、音量が変化します。押し続けると、音量を連続して調節できます。
ボタンの左側に音量レベルが表示されます。

② **音源入力・出力選択ボタン**

どの音源をどの出力先に送るかを選択できます。
入力と出力が交差するボタンを押してください。
ボタンをもう一度押すと、選択が解除されます。
出力先に複数の音源が選択されているときは、ミキシング（混ざって出力）されます。

③ **音声ボタン**

押すと、音声機器の放送選択画面が表示されます。

④ **映像ボタン**

押すと、映像機器の放送選択画面が表示されます。

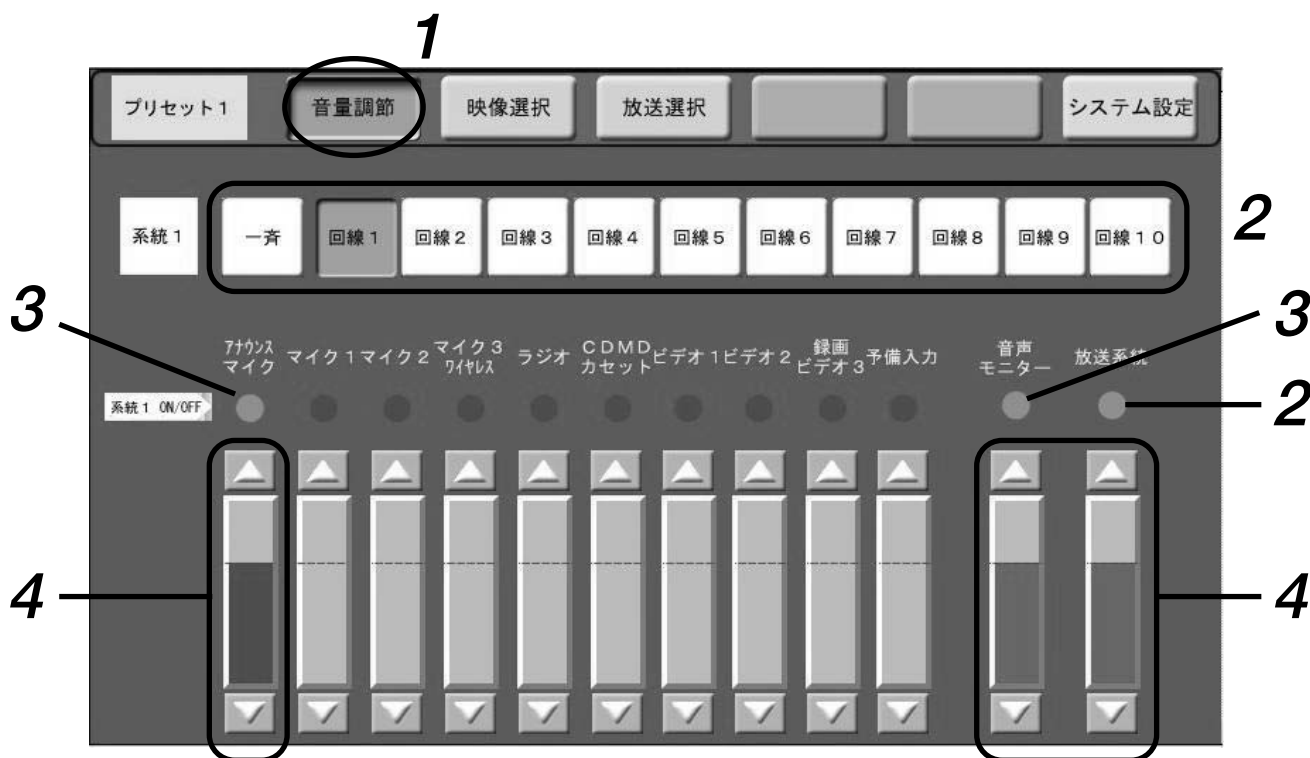
● システム設定画面

プリセットパターンの保存、出力回線の名称選択などのシステムの設定を行います。
この画面に入るには、パスワードの入力が必要です。
詳しくは、別冊の設置説明書をお読みください。

■ 操作例（音声１元10局システムの場合）

コントロールパネルAV-400CPの電源を入れて、初期画面（音量調節画面）を表示させてください。

● 個別放送１（アナウンス放送）

1 画面上列の「音量調節」を押す。
音量調節画面が表示されます。
メ　モ　電源を入れた直後の初期画面は音量調節画面になっています。

2 放送したい場所（スピーカー回線）を系統１から選択する。
連動して「放送系統」のON/OFFボタンがON（緑）になります。
※ すべての場所に一斉放送をするときは、「一斉」ボタンを選択します。

3 「アナウンスマイク」のON/OFFボタンを押して、ON（緑）にする。
連動して「音声モニター」のON/OFFボタンがON（緑）になります。

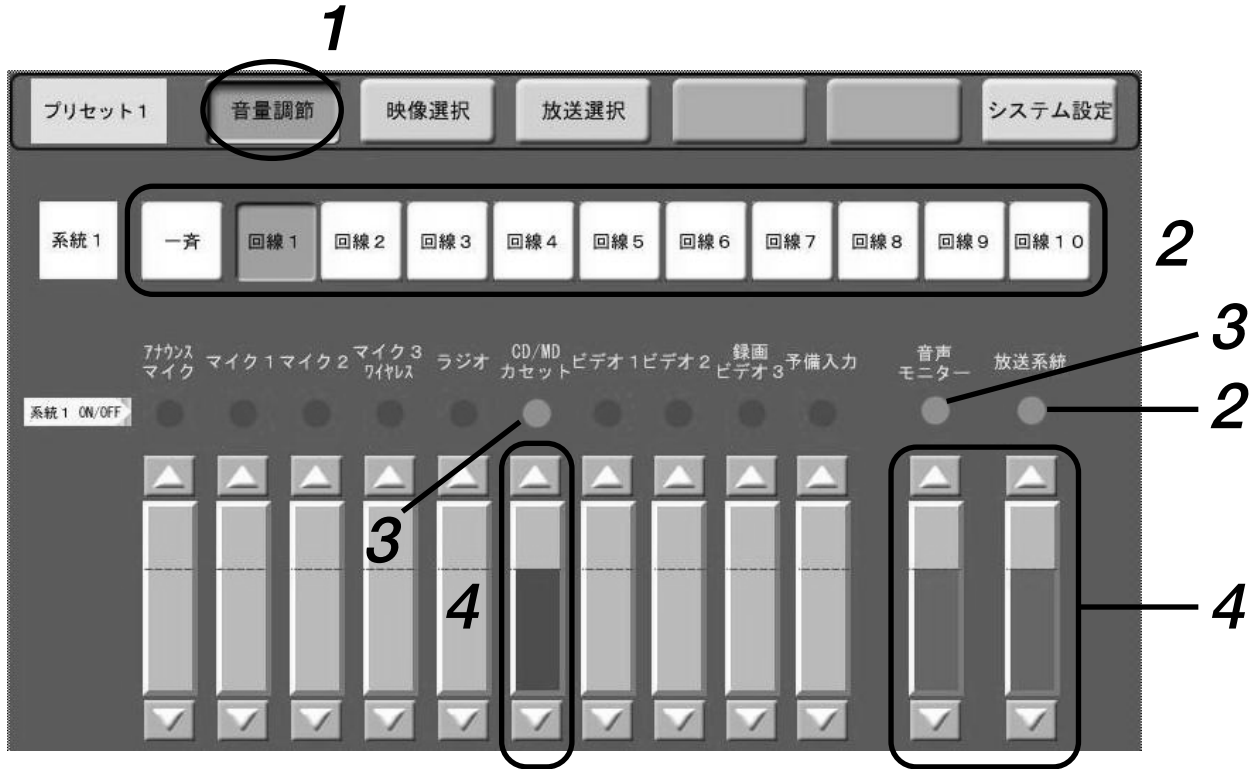
4 「アナウンスマイク」、「放送系統」の音量調節ボタンを押し、適切な音量に調節する。モニタースピーカーを使用するときは、「音声モニター」の音量も同様に調節する。
選択した場所にアナウンスが放送できる状態になります。

5 チャイムを鳴らす場合は、コントロールパネルAV-400CPのチャイムボタンを押す。
チャイムが流れている間、チャイム表示灯が点灯します。

6 （チャイムを鳴らした場合はチャイム表示灯が消灯した後）アナウンスマイクで放送する。

● 個別放送2（BGM 放送）

CD プレーヤーで再生した音楽を放送するときの手順を示します。

1 **画面上列の「音量調節」を押す。**
音量調節画面が表示されます。

2 **放送したい場所（スピーカー回線）を系統1から選択する。**
連動して「放送系統」の ON/OFF ボタンが ON（緑）になります。
※ すべての場所に一斉放送をするときは、「一斉」ボタンを選択します。

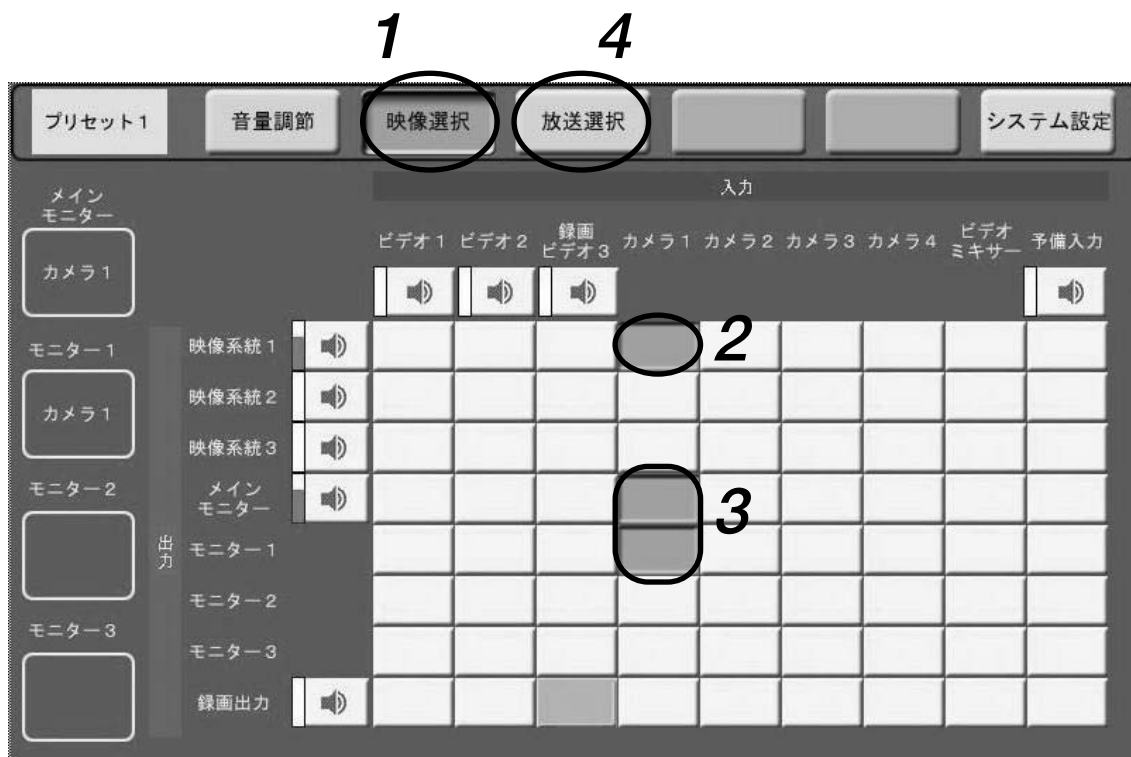
3 **「CD/MD/カセット」と「放送系統」の ON/OFF ボタンを押して、ON（緑）にする。**
連動して「音声モニター」の ON/OFF ボタンが ON（緑）になります。

4 **「CD/MD/カセット」「放送系統」の音量調節ボタンを押し、適切な音量に調節する。モニタースピーカーを使用するときは、「音声モニター」の音量も同様に調節する。**

5 **CD プレーヤーで音楽を再生する。**

● カメラ放送

朝礼など、カメラで撮影している映像を放送する場合の例です。
カメラ１の映像とマイク１の音声を映像系統１に放送するときの手順を説明します。

1 **画面上列の「映像選択」を押す。**
映像選択画面が表示されます。

2 **「カメラ1」と「映像系統1」の交点のボタンを押してONにする。**
映像系統１にカメラ１の映像が放送できる状態になります。

3 **モニターで映像を確認するには、「カメラ１」と「メインモニター」*または「モニター1～3」との交点のボタンを押してONにする。**
ONにしたモニターにカメラ１の映像が放送されます。
＊ システムにメインモニターが接続されている場合

4 **画面上列の「放送選択」を押す。**

放送選択画面が表示されます。

5 「マイク1」と「映像系統1」の交点のボタンを押してONにする。モニタースピーカーで確認したいときは「音声モニター」の交点のボタンもONにする。

6 「マイク1」、「映像系統1」の音量調節ボタン（スピーカーマーク）を押し、適切な音量に調節する。モニタースピーカーを使用するときは、「音声モニター」の音量も同様に調節する。

7 カメラ1を動作させ、マイク1で話す。

メ　モ

放送をビデオに録画したい場合は、映像選択画面の「カメラ1」と「録画出力」の交点、および放送選択画面の「マイク1」と「録画出力」の交点もONにします。「マイク1」と「録画出力」の音量調節ボタンを適切な音量に調節し、録画ビデオをスタートさせます。

● ビデオ放送

ビデオ１の再生映像を映像系統１に放送するときの例で手順を説明します。

1 画面上列の「映像選択」を押す。

映像選択画面が表示されます。

2 「ビデオ１」と「映像系統１」の交点のボタンを押してONにする。

映像系統１にビデオ１の映像と音声が放送されます。

メ　モ

ビデオおよび予備入力など、音声が伴う映像入力は、映像選択を行うと自動的にその音声も選択されます。

3 モニターで映像の内容を確認するには、「ビデオ１」と「メインモニター」*または「モニター１〜３」との交点のボタンを押してONにする。

ONにしたモニターにビデオ１の再生映像が放送されます。

＊ システムにメインモニターが接続されている場合

4 モニタースピーカーで音声を確認したいときは、「メインモニター」の交点のボタンもONにする。

メ　モ

この画面でのメインモニターの音量調節は、放送選択画面の音声モニターの音量調節と同じものです。メインモニターが接続されていないシステムであっても、「ビデオ１」と「メインモニター」の交点のボタンをONにすることによって、この画面で音声モニターの音量調節をすることができます。

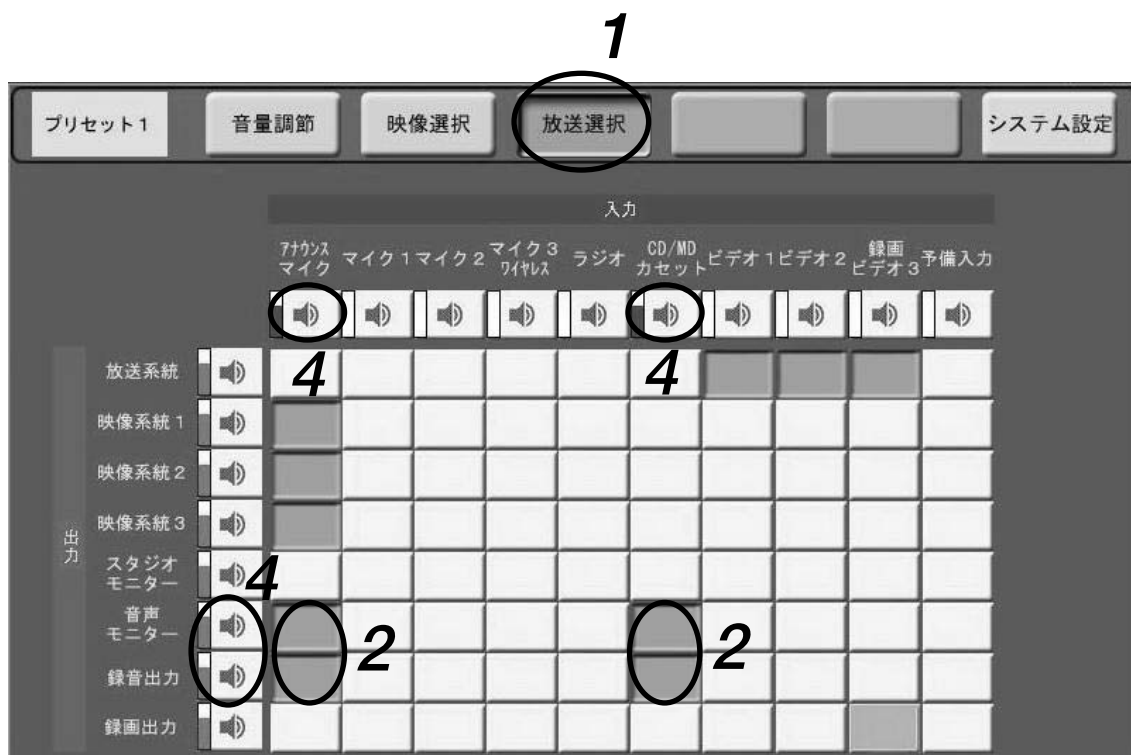
5 「ビデオ１」、「映像系統１」、「メインモニター」の音量調節ボタン（スピーカーマーク）を押し、適切な音量に調節する。

6 ビデオ１を再生する。

● ミキシング録音

アナウンスマイクからの音声とCDプレーヤーで再生した音楽をミキシングして録音するときの例で手順を説明します。

1 画面上列の「放送選択」を押す。

放送選択画面が表示されます。

2 「アナウンスマイク」と「録音出力」、「CD/MD/カセット」と「録音出力」の交点のボタンを押してONにする。モニタースピーカーで確認したいときは、「アナウンスマイク」と「音声モニター」、「CD/MD/カセット」と「音声モニター」の交点のボタンもONにする。

3 接続されている録音機器（MDまたはカセット）を録音待機状態にする。

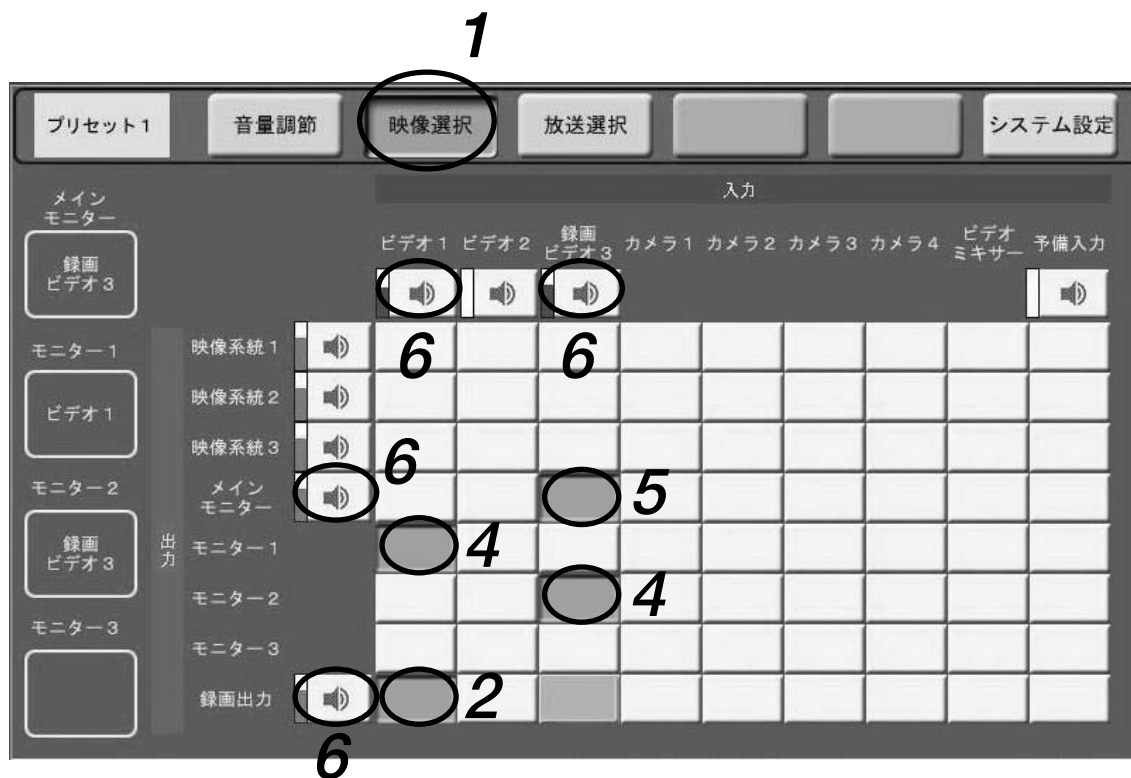
※ 録音機器の操作のしかたは、その機器の取扱説明書を参照してください。

4 「アナウンスマイク」、「CD/MD/カセット」「録音出力」の音量調節ボタン（スピーカーマーク）を押して、適切な音量に調節する。モニタースピーカーを使用するときは「音声モニター」の音量も同様に調節する。

5 録音機器をスタートさせる。

● ビデオ録画（ダビング）

ビデオ１からビデオ３にダビングするときの例で手順を説明します。

1 **画面上列の「映像選択」を押す。**
映像選択画面が表示されます。

2 **「ビデオ１」と「録画出力」の交点のボタンを押して ON にする。**

3 **ビデオ３（ダビング先のビデオ）を録画待機状態にする。**
※ ビデオの操作のしかたは、その機器の取扱説明書を参照してください。

4 **モニターで映像の内容を確認するには、例えば「ビデオ１」と「モニター１」との交点、および「録画出力」と「モニター２」との交点のボタンを押して ON にする。**
ビデオ１の映像がモニター１に、ビデオ３の映像がモニター２に映ります。

5 **モニタースピーカーで音声を確認したいときは、「メインモニター」*の交点のボタンも ON にする。**
＊ システムにメインモニターが接続されている場合

メ　モ

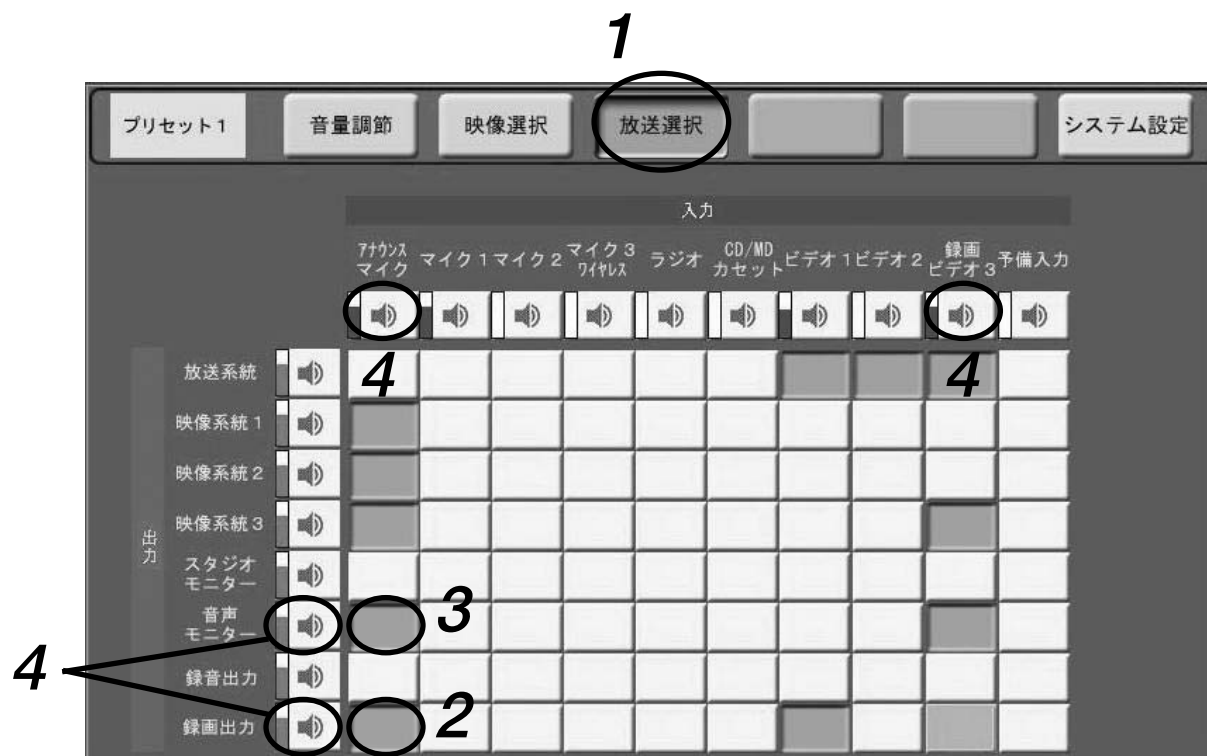
この画面でのメインモニターの音量調節は、放送選択画面の音声モニターの音量調節と同じものです。メインモニターが接続されていないシステムであっても、「録画ビデオ３」と「メインモニター」の交点のボタンを ON にすることによって、この画面で音声モニターの音量調節をすることができます。

6 **「ビデオ１」、「録画出力」、「メインモニター」の音量調節ボタン（スピーカーマーク）を押し、適切な音量に調節する。**

7 **ビデオ３の録画待機状態を解除し、ビデオ１（ダビング元のビデオ）を再生する。**

[アナウンスマイクの音声をミキシングしながらダビングするとき]

アナウンスマイクを使用するときは、前ページの**手順5**の後、放送選択画面で次のように操作します。

1 **画面上列の「放送選択」を押す。**
放送選択画面が表示されます。
映像選択画面で押したボタンと連動するボタンは、すでに押された状態になっています。

2 「アナウンスマイク」と「録画出力」の交点のボタンを押してONにする。

3 モニタースピーカーでアナウンスマイクの音声を確認したいときは、「アナウンスマイク」と「音声モニター」の交点も押してONにする。

4 「アナウンスマイク」、「録画出力」、「音声モニター」の音量調節ボタン（スピーカーマーク）を押し、適切な音量に調節する。

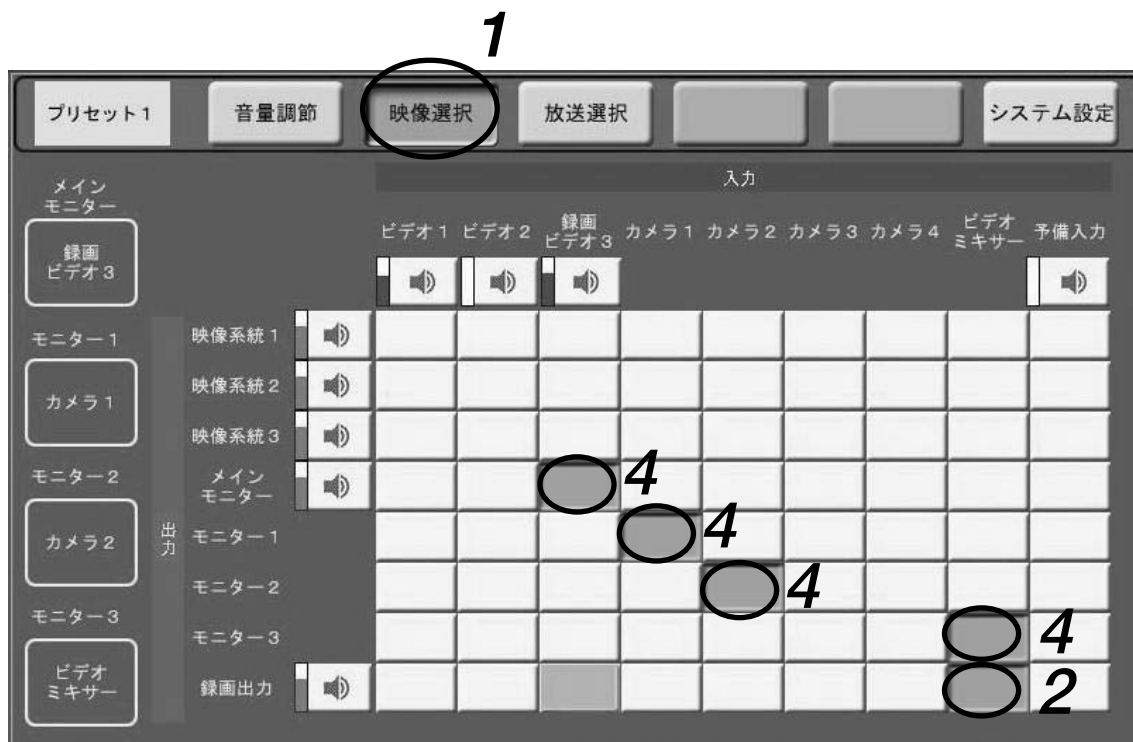
5 ビデオ3の録画待機状態を解除し、ビデオ1を再生しながら、アナウンスマイクで話す。

● ビデオミキサー録画（映像編集）

ビデオミキサーは、入力１＝ビデオ１、入力２＝カメラ１、入力３＝カメラ２が接続されています。
※ 入力４には何も接続されていません。

これらの映像から２つを選択し、ミキシング映像を制作することができます。
カメラ１とカメラ２をミキシングするときの例で手順を説明します。

1 画面上列の「映像選択」を押す。

映像選択画面が表示されます。

2 「ビデオミキサー」と「録画出力」の交点のボタンを押してONにする。

3 ビデオ３（録画先のビデオ）を録画待機状態にする。

※ ビデオの操作のしかたは、その機器の取扱説明書を参照してください。

4 モニターで内容を確認する。

「カメラ１」と「モニター１」、「カメラ２」と「モニター２」、「ビデオミキサー」と「モニター３」との交点をONにします。
モニター１、２には、ミキシングする前の映像、モニター３にはミキシング後の映像が表示されます。
※ 必要に応じて「録画ビデオ３」と「メインモニター」の交点もONにします。

5 ビデオミキサーの設定をする。

必要に応じて、切替モード選択ボタン、キー合成調節つまみなどで設定します。（☞ P. 45）

6 ビデオ３の録画待機状態を解除する。

7 ビデオミキサーを操作する。（☞ P. 45）

■ 操作例（音声3元30局システムの場合）

コントロールパネルAV-400CP3の電源を入れて、初期画面（音量調節画面）を表示させてください。

※ ここに記載していない操作例については、音声1元10局システムの操作例（☞ P. 34）を参考にしてください。

● 音量調節画面での操作例

1 **画面上列の「音量調節」を押す。**

音量調節画面が表示されます。

メ　モ　電源を入れた直後の初期画面は音量調節画面になっています。

2 **放送したい場所（スピーカー回線）を系統1/2/3からそれぞれ選択する。**

※ 各系統のすべての場所に一斉放送をするときは、「一斉」ボタンを選択します。

3 **放送したい音源のON/OFFボタンを押して、ON（緑）にする。モニタースピーカーで確認したいときは「音声モニター」のON/OFFボタンもON（緑）にする。**

※ 各放送系統に対して、映像機器の音声のON/OFFは連動します。

4 **放送したい音源および放送系統の音量調節ボタンを押し、適切な音量に調節する。モニタースピーカーを使用するときは、「音声モニター」の音量も同様に調節する。**

選択した場所に放送できる状態になります。

[アナウンス放送をするとき]

5 **チャイムを鳴らす場合は、コントロールパネルAV-400CP3のチャイムボタンを押す。**

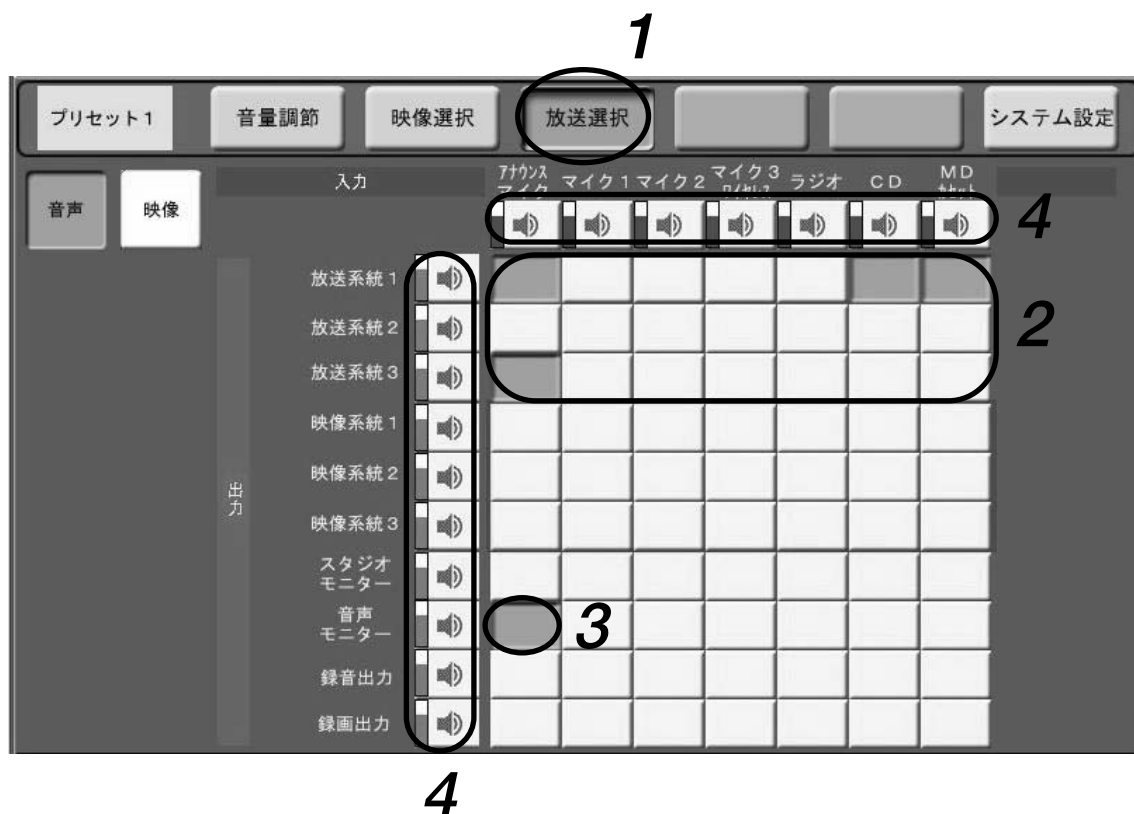
チャイムが流れている間、チャイム表示灯が点灯します。

6 （チャイムを鳴らした場合はチャイム表示灯が消灯した後）**アナウンスマイクで放送する。**

※ この画面の例では、アナウンスマイクを放送系統１の一斉回線に、CD を放送系統２の回線 21 に、MD/カセットを放送系統３の回線 50 に放送できる状態になっています。

● 放送選択画面での操作例

放送したい放送回線は、あらかじめ音量調節画面で選択しておきます。
モニタースピーカーで放送内容を確認したい場合は、「音声モニター」の ON/OFF ボタンを押して ON（緑）にしておきます。

1 画面上列の「放送選択」を押す。
放送選択画面が表示されます。

2 放送系統 1/2/3 とそれぞれに放送したい音源との交点のボタンを押して ON にする。
※ 各放送系統に対して、映像機器の音声の ON/OFF は連動します。

3 モニタースピーカーで放送内容を確認したいときは、放送したい音源と「音声モニター」の交点も押して ON にする。

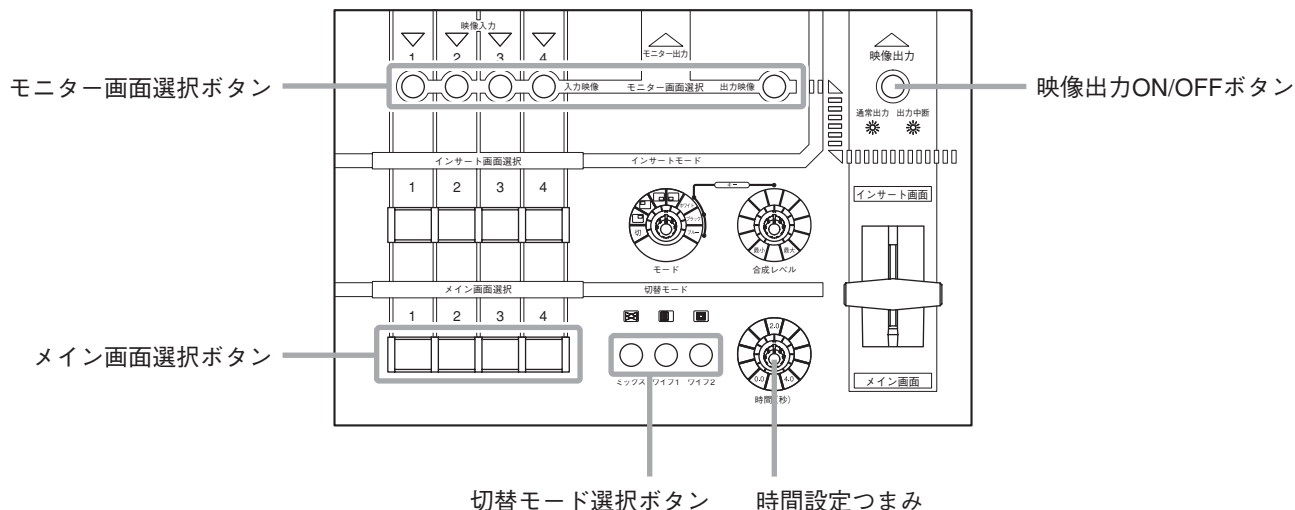
4 必要な入力、出力の音量調節ボタン（スピーカーマーク）を押し、適切な音量に調節する。

※ この画面の例では、アナウンスマイク、CD、MD/カセットを放送系統１に、アナウンスマイクを放送系統３に放送できる状態になっています。またアナウンスマイクは音声モニターで確認しています。

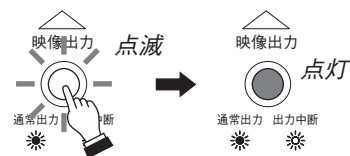
ビデオミキサーの操作のしかた（SV-F13L、SV-F33L のみ）

■ 映像を自動で切り換える

メイン画面選択ボタンの操作だけで、簡単にトランジション効果（シーンとシーンの切り換えに使用する映像効果）付きの映像切り換えを行うことができます。

［ビデオミキサー **LVS-400 SVE**］

※ システム電源が入っていることを確認してください。

1 **映像出力 ON/OFF ボタンを押して、ON にする。**

ボタンの表示灯が点滅から点灯に変わります。

2 **メイン画面選択ボタンを切り換えて、入力映像を確認する。**

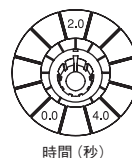
メ モ

外部のモニター（別売）が接続されている場合は、モニター画面選択ボタンで確認できます。

（例）1 を編集元に選択

3 **メイン画面選択ボタンを押して、編集元の映像を選択する。**

4 **時間設定つまみで、自動切換時間を設定する。**

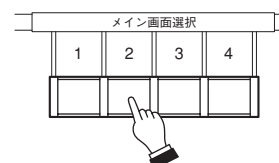
映像が完全に切り換わるまでの時間を設定します。

5 切替モード選択ボタンを押して、トランジション効果（シーンとシーンの切り換えに使用する映像効果）を選択する。

映像が切り換わるときに、次のような効果がかかります。

ミックス	2つの映像が混ざりながら切り換わります。（オーバーラップ）
ワイプ1	左からワイプで映像が切り換わります。
ワイプ2	中央から長方形のワイプで映像が切り換わります。

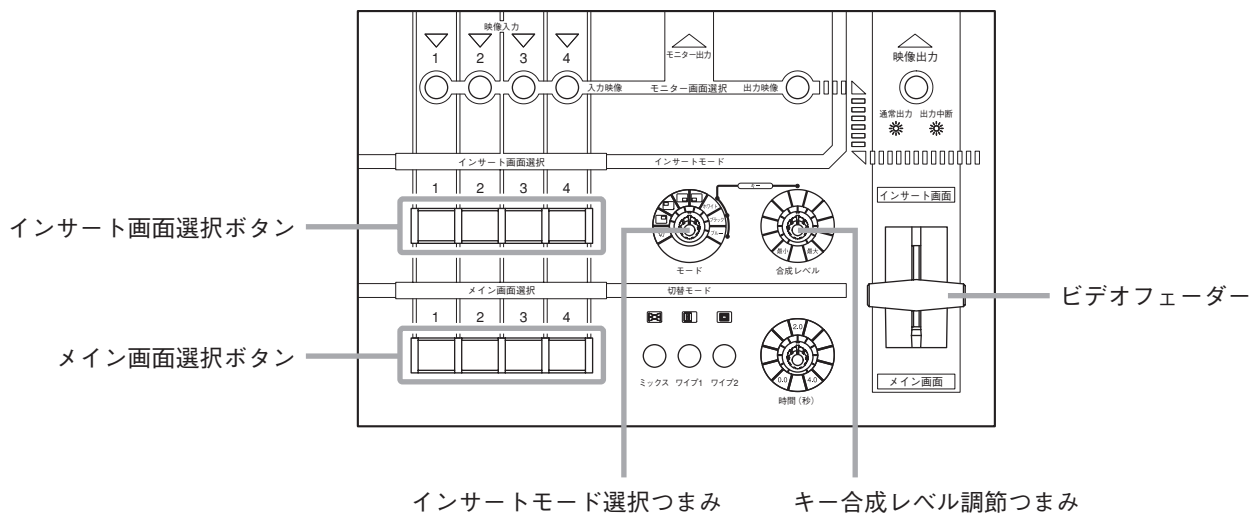
6 メイン画面選択ボタンを押して、切換後の映像を選択する。

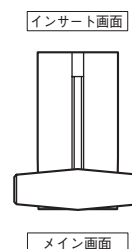
押されたボタンが点滅し、映像の切り換えが始まります。

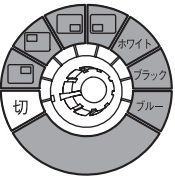
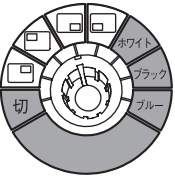
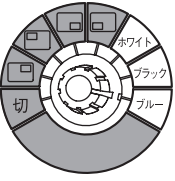
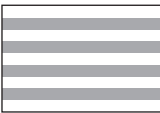
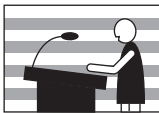
（例）2を切り換え後の映像に選択

■ 映像を手動でインサートする

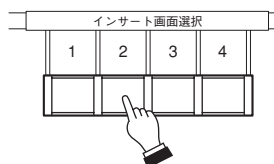
ビデオフェーダーを使うと、手動で映像をインサートすることができます。
その際、ピクチャー・イン・ピクチャー*1、またはキー合成*2 のインサートエフェクト（合成効果）をかけることもできます。

*1 *2　以下の手順4で、この機能を説明しています。

［ビデオミキサー **LVS-400 SVE**］

※ システム電源が入っていることを確認してください。

1 ビデオフェーダーを「メイン画面」側にする。

2 メイン画面選択ボタンを押して、編集元の映像を選択する。

（例）3 を編集元に選択

3 インサート画面選択ボタンを押して、インサートする映像を選択する。

（例）2 をインサートする映像に選択

4 インサートモード選択つまみで、インサートエフェクトを選択する。

選択するモードにより、次の機能が働き、インサートエフェクト（合成効果）がかかります。

モード	効果
切 モード	合成効果はかかりません。 切替モード選択ボタン（ミックス／ワイプ1／ワイプ2）で選択されたトランジション効果*3 により、映像が切り換わります。 *3 シーンとシーンの切り換えに使用する映像効果
ピクチャー・イン・ピクチャー機能 モード	指定された位置（右上、左上、右下、左下）に小さなインサート映像がメイン映像に挿入されます。 （例）□ を選択した場合 メイン映像 インサート映像 出力映像
キー合成機能 モード	「ホワイト」、「ブラック」、または「ブルー」を選択すると、この機能が働きます。 ・ホワイト：インサート映像の明るい部分をメイン映像で置き換えます。 ・ブラック：インサート映像の暗い部分をメイン映像で置き換えます。 ・ブルー　：インサート映像の青い部分をメイン映像で置き換えます。 （例）「ブルー」を選択した場合 メイン映像 ブルーバック インサート映像 出力映像

5 手順4でキー合成機能を選択したときは、キー合成レベル調節つまみで合成レベルを調節する。

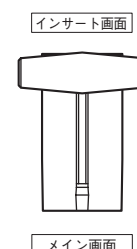
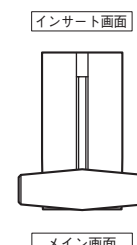
メイン画面と指定色との合成の度合いを調節します。

合成レベル

6 ビデオフェーダーを「インサート画面」側に倒す。

フェーダーの動きに応じて、映像がインサートされます。

ご注意

ビデオフェーダーが「メイン画面」側に倒し切られていない状態では、
フェーダーを動かしてもインサート機能が働きません。
このとき、一度「メイン画面」側に倒し切ると、機能が働き始めます。

7 元の画像に戻るときは、ビデオフェーダーを「メイン画面」側に戻す。

故障かな？と思ったら

● すべてのシステム共通

症　状	調べるところ	処　置
電源が入らない。	主電源（分電盤のブレーカー）が入っていますか？ 落雷などの停電の後には、主電源が切れていることがあります。	主電源を入れて、コントロールパネルの電源表示灯が点滅（スタンバイ）していることを確認してください。
マイク放送、チャイム、スタジオ連絡などができない。	システムの電源が入っていますか？ これらの操作は、システムが起動していないと動作しません。	システムの電源を入れてください。 （☞ P. 21）
プリセット操作が効かない。	システムの電源が入っていますか？ これらの操作は、システムが起動していないと動作しません。	システムの電源を入れてください。 （☞ P. 21）
	プリセットに放送内容が設定されていますか？ あらかじめ設定されていないと、プリセット動作はしません。	プリセットの設定内容は、設置業者または当社営業所にお問い合わせください。 プリセットの設定のしかたは、設置説明書をお読みください。
マスター音量で映像系統の音量が変わらない。	――	マスター音量は放送系統に対してのみ有効です。映像系統の音量は、映像選択画面で調節してください。 （☞ P. 30）
映像系統に映像が流れない。音が流れない。	映像入力が正しく出力に割り当てられていますか？	映像選択画面で入出力を正しく設定してください。（☞ P. 30）
	音声入力が正しく出力に割り当てられていますか？	放送選択画面で入出力を正しく設定してください。（☞ P. 31）
放送系統に音が流れない。	演奏機器類の電源が入っていますか？	各機器の電源を入れてください。
	マイク入／切ボタンがONになっていますか？	マイク入／切ボタンをONにしてください。
	音量調節画面で、放送する場所の回線が選択されていますか？	音量調節画面で、一斉または回線を選択してください。（☞ P. 28）
	音量調節画面で、放送したい機器の放送音源ON/OFFボタンがON（緑色）になり、音量が上がっていますか？	音量調節画面で、放送したい機器の放送音源ON/OFFボタンをONにし、音量を上げてください。（☞ P. 28）
	音量調節画面で、放送系統の出力ON/OFFボタンがON（緑色）になり、音量が上がっていますか？	音量調節画面で、放送系統の出力ON/OFFボタンをONにし、音量を上げてください。（☞ P. 28）

● ビデオミキサー LVS-400 SVE に適用（SV-F13L、SV-F33Lのみ）

症　状	調べるところ	処　置
ビデオフェーダーを操作しても映像が切り換わらない。	インサートモード選択つまみが「切」の場合、メイン画面とインサート画面に同じ入力が選択されていませんか？	メイン画面とインサート画面の映像は異なるものを選択してください。
	インサート使用中にメイン入力の切り換えを行っていませんか？	インサート使用中にメイン画面を切り換えると、インサートは自動的に解除されます。再度インサートを開始するときは、ビデオフェーダーをいったん「メイン画面」側に倒し切ってください。倒し切ったところからインサートが開始されます。
ビデオ機器を再生しているのに、映像が出力されない。	映像出力ON/OFFボタンが出力中断（点滅）になっていませんか？	映像出力ON/OFFボタンが出力中断（点滅）の場合、出力は黒画面になります。映像出力ON/OFFボタンを押すと、通常出力（点灯）に変わり、映像が出力されます。
トランジション効果がかからない。	時間設定つまみが「0.0」付近になっていませんか？	時間設定つまみが「0.0」付近では、メイン画面を切り換えるときにトランジション効果がかかりません。設定を長くすると効果が確認できます。

● タッチパネル NXD-1000VI SVF に適用

症　状	調べるところ	処　置
タッチパネルの動作が効かない。	操作する先の機器の電源が入っていますか？	操作する先の機器の電源を入れてください。

タッチパネルに関する下記の症状が現れたら、システム電源を一度切り、もう一度電源を入れてください。
それでも直らない場合は、当社営業所までご連絡ください。

- 起動中に動かなくなる。
- 画面のどこを押しても、まったく反応しない。
- 画面を押したところと違うところが反応する。
- 画面に何も映らない。

メ　モ

電源スイッチを押しても電源が切れないときは、システムを強制終了してください。

「電源スイッチ」→「マイク入/切ボタン」→「スタジオ連絡ボタン」を１秒以内に順に押します。

仕　様

■ SV-F13シリーズ

<table>
<tr><td colspan="2">電　源</td><td>AC100 V、50/60 Hz</td></tr>
<tr><td rowspan="2">映像部</td><td>入力回路</td><td>カメラ入力　：映像4回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω、BNC接栓
ビデオ　：映像3回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω、BNC接栓
音声3回路、ステレオ、10 kΩ、−10 dB*1、不平衡、ピンジャック
ビデオミキサー：映像1回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω、BNC接栓
予備　：映像1回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω、ピンジャック
音声1回路、ステレオ、10 kΩ、−10 dB*1、不平衡、ピンジャック</td></tr>
<tr><td>出力回路</td><td>ライン　：映像3回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω、BNC接栓
音声3回路、10 kΩ、0 dB*1、平衡、着脱式ターミナルブロック
メインモニター：映像1回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω、BNC接栓
モニター　：映像3回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω、BNC接栓
録画　：映像1回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω、BNC接栓
音声1回路、10 kΩ、−10 dB*1、不平衡、ピンジャック</td></tr>
<tr><td rowspan="2">音声部</td><td>入力回路</td><td>アナウンスマイク　：1回路、10 kΩ、−50 dB*1、電子バランス、ダイナミック型、3P、メタコン
マイク　：2回路、10 kΩ、−50 dB*1、電子バランス、ダイナミック型、着脱式ターミナルブロック
ラジオ　：1回路、10 kΩ、0 dB*1、電子バランス、着脱式ターミナルブロック
チャイム　：1回路、10 kΩ、0 dB*1、電子バランス、着脱式ターミナルブロック
CD／MD／カセット　：1回路、ステレオ、10 kΩ、−10 dB*1、不平衡、ピンジャック
リモートマイク　：1回路、10 kΩ、0 dB*1、不平衡、ピンジャック
マイク／ワイヤレスチューナー：1回路、10 kΩ、−50 dB*1、電子バランス、着脱式ターミナルブロック</td></tr>
<tr><td>出力回路</td><td>ライン　：1回路、0 dB*1、電子バランス、着脱式ターミナルブロック
モニター　：1回路、−10 dB*1、不平衡、ピンジャック
スタジオ連絡：1回路、−10 dB*1、不平衡、ピンジャック
録音　：1回路、−10 dB*1、不平衡、ピンジャック</td></tr>
<tr><td colspan="2">タッチパネル部</td><td>抵抗膜方式
10型カラーアクティブマトリクスLCD、WVGA（800×480）</td></tr>
<tr><td colspan="2">映像（副）モニター部</td><td>7.5型液晶モニター3台</td></tr>
<tr><td colspan="2">カメラタリー出力</td><td>3回路、メイク式、着脱式ターミナルブロック</td></tr>
<tr><td colspan="2">スピーカー回路</td><td>（10～50局*2＋一斉）×1系統</td></tr>
<tr><td colspan="2">ラジオチューナー部</td><td>アンテナ入力：AM 530～1,620 kHz、ローインピーダンス、BNC接栓
FM 76～90 MHz、75 Ω、BNC接栓
メモリー局数：AM、FM各5局</td></tr>
<tr><td colspan="2">チャイム</td><td>4音電子式チャイム</td></tr>
<tr><td colspan="2">緊急放送</td><td>一斉アナウンス優先放送</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用温度範囲</td><td>0～40℃</td></tr>
<tr><td colspan="2">仕上げ</td><td>ラック側板：木製、オフホワイト（マンセル4.9Y8.0/1.2近似色）、コート紙貼り</td></tr>
<tr><td colspan="2">寸法</td><td>1,221（幅）×1,120（高さ）×860（奥行）mm</td></tr>
<tr><td colspan="2">質量</td><td>141 kg</td></tr>
</table>

*1 0 dB = 1 V
*2 システム品番により異なります。

※本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

■ SV-F13L シリーズ

<table>
<tr><td colspan="2">電源</td><td>AC100 V、50/60 Hz</td></tr>
<tr><td rowspan="2">映像部</td><td>入力回路</td><td>カメラ入力　：映像4回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω、BNC接栓
ビデオ　：映像3回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω、BNC接栓
音声3回路、ステレオ、10 kΩ、−10 dB *1、不平衡、ピンジャック
ビデオミキサー：映像1回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω、BNC接栓
予備　：映像1回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω、ピンジャック
音声1回路、ステレオ、10 kΩ、−10 dB *1、不平衡、ピンジャック</td></tr>
<tr><td>出力回路</td><td>ライン　：映像3回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω、BNC接栓
音声3回路、10 kΩ、0 dB *1、平衡、着脱式ターミナルブロック
メインモニター：映像1回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω、BNC接栓
モニター　：映像3回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω、BNC接栓
録画　：映像1回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω、BNC接栓
音声1回路、10 kΩ、−10 dB *1、不平衡、ピンジャック</td></tr>
<tr><td rowspan="2">音声部</td><td>入力回路</td><td>アナウンスマイク　：1回路、10 kΩ、−50 dB *1、電子バランス、ダイナミック型、3P、メタコン
マイク　：2回路、10 kΩ、0 dB *1、電子バランス、ダイナミック型、着脱式ターミナルブロック
ラジオ　：1回路、10 kΩ、0 dB *1、電子バランス、着脱式ターミナルブロック
チャイム　：1回路、10 kΩ、0 dB *1、電子バランス、着脱式ターミナルブロック
CD／MD／カセット　：1回路、ステレオ、10 kΩ、−10 dB *1、不平衡、ピンジャック
リモートマイク　：1回路、10 kΩ、0 dB *1、不平衡、ピンジャック
マイク／ワイヤレスチューナー：1回路、10 kΩ、−50 dB *1、電子バランス、着脱式ターミナルブロック</td></tr>
<tr><td>出力回路</td><td>ライン　：1回路、0 dB *1、電子バランス、着脱式ターミナルブロック
モニター　：1回路、−10 dB *1、不平衡、ピンジャック
スタジオ連絡：1回路、−10 dB *1、不平衡、ピンジャック
録音　：1回路、−10 dB *1、不平衡、ピンジャック</td></tr>
<tr><td rowspan="3">特殊効果</td><td>映像入力</td><td>カメラ（ビデオ）：4回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω、BNC接栓</td></tr>
<tr><td>映像出力</td><td>カメラ（ビデオ）：2回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω、BNC接栓
モニター　：1回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω、BNC接栓</td></tr>
<tr><td>機能</td><td>切換エフェクト　：ミックス、ワイプ1、ワイプ2
合成エフェクト　：ピクチャー・イン・ピクチャー4種類、ルミナンス・キー2種類、クロマ・キー、スーパーインポーズ</td></tr>
<tr><td colspan="2">タッチパネル部</td><td>抵抗膜方式
10型カラーアクティブマトリクスLCD、WVGA（800×480）</td></tr>
<tr><td colspan="2">映像（副）モニター部</td><td>7.5型液晶モニター3台</td></tr>
<tr><td colspan="2">カメラタリー出力</td><td>3回路、メイク式、着脱式ターミナルブロック</td></tr>
<tr><td colspan="2">スピーカー回路</td><td>（10〜50局*2＋一斉）×1系統</td></tr>
<tr><td colspan="2">ラジオチューナー部</td><td>アンテナ入力：AM　530〜1,620 kHz、ローインピーダンス、BNC接栓
FM　76〜90 MHz、75 Ω、BNC接栓
メモリー局数：AM、FM各5局</td></tr>
<tr><td colspan="2">チャイム</td><td>4音電子式チャイム</td></tr>
<tr><td colspan="2">緊急放送</td><td>一斉アナウンス優先放送</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用温度範囲</td><td>0〜40 ℃</td></tr>
<tr><td colspan="2">仕上げ</td><td>ラック側板：木製、オフホワイト（マンセル4.9Y8.0/1.2近似色）、コート紙貼り</td></tr>
<tr><td colspan="2">寸法</td><td>1,221（幅）× 1,120（高さ）× 860（奥行）　mm</td></tr>
<tr><td colspan="2">質量</td><td>143 kg</td></tr>
</table>

*1　0 dB = 1 V
*2　システム品番により異なります。
※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

■ SV-F33 シリーズ

<table>
<tr><td colspan="2">電源</td><td>AC100 V、50/60 Hz</td></tr>
<tr><td rowspan="2">映像部</td><td>入力回路</td><td>カメラ入力　：映像4回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω 、BNC 接栓
　　　　　　　音声2回路、ステレオ、10 kΩ 、−10 dB *1、不平衡、ピンジャック
ビデオ　　　：映像3回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω 、BNC 接栓
　　　　　　　音声3回路、ステレオ、10 kΩ 、−10 dB *1、不平衡、ピンジャック
ビデオミキサー：映像1回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω 、BNC 接栓
予備　　　　：映像1回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω 、ピンジャック
　　　　　　　音声1回路、ステレオ、10 kΩ 、−10 dB *1、不平衡、ピンジャック</td></tr>
<tr><td>出力回路</td><td>ライン　　　：映像3回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω 、BNC 接栓
　　　　　　　音声3回路、10 kΩ 、0 dB *1、平衡、着脱式ターミナルブロック
メインモニター：映像1回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω 、BNC 接栓
モニター　　：映像3回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω 、BNC 接栓
録画　　　　：映像1回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω 、BNC 接栓
　　　　　　　音声1回路、10 kΩ 、−10 dB *1、不平衡、ピンジャック</td></tr>
<tr><td rowspan="2">音声部</td><td>入力回路</td><td>アナウンスマイク　：1回路、10 kΩ 、−50 dB *1、電子バランス、ダイナミック型、3P、メタコン
マイク　　　：2回路、10 kΩ 、−50 dB *1、電子バランス、ダイナミック型、着脱式ターミナルブロック
ラジオ　　　：1回路、10 kΩ 、0 dB *1、電子バランス、着脱式ターミナルブロック
チャイム　　：1回路、10 kΩ 、0 dB *1、電子バランス、着脱式ターミナルブロック
CD　　　　：1回路、ステレオ、10 kΩ 、−10 dB *1、不平衡、ピンジャック
MD／カセット　：1回路、ステレオ、10 kΩ 、−10 dB *1、不平衡、ピンジャック
リモートマイク　：1回路、10 kΩ 、0 dB *1、不平衡、ピンジャック
マイク／ワイヤレスチューナー：1回路、10 kΩ 、−50 dB *1、電子バランス、着脱式ターミナルブロック</td></tr>
<tr><td>出力回路</td><td>ライン　　：3回路、0 dB *1、電子バランス、着脱式ターミナルブロック
モニター　：1回路、−10 dB *1、不平衡、ピンジャック
スタジオ連絡：1回路、−10 dB *1、不平衡、ピンジャック
録音　　　：1回路、−10 dB *1、不平衡、ピンジャック</td></tr>
<tr><td colspan="2">タッチパネル部</td><td>抵抗膜方式
10型カラーアクティブマトリクスLCD、WVGA（800×480）</td></tr>
<tr><td colspan="2">映像（副）モニター部</td><td>7.5型液晶モニター3台</td></tr>
<tr><td colspan="2">カメラタリー出力</td><td>3回路、メイク式、着脱式ターミナルブロック</td></tr>
<tr><td colspan="2">スピーカー回路</td><td>（局数*2＋一斉）×3系統（30～60局*2）</td></tr>
<tr><td colspan="2">ラジオチューナー部</td><td>アンテナ入力：AM　530～1,620 kHz、ローインピーダンス、BNC 接栓
　　　　　　　FM　76～90 MHz、75 Ω 、BNC 接栓
メモリー局数：AM、FM 各5局</td></tr>
<tr><td colspan="2">チャイム</td><td>4音電子式チャイム</td></tr>
<tr><td colspan="2">緊急放送</td><td>一斉アナウンス優先放送</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用温度範囲</td><td>0～40 ℃</td></tr>
<tr><td colspan="2">仕上げ</td><td>ラック側板：木製、オフホワイト（マンセル4.9Y8.0/1.2近似色）、コート紙貼り</td></tr>
<tr><td colspan="2">寸法</td><td>1,221（幅）× 1,120（高さ）× 860（奥行）　mm</td></tr>
<tr><td colspan="2">質量</td><td>140 kg</td></tr>
</table>

*1　0 dB = 1 V
*2　システム品番により異なります。

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

■ SV-F33L シリーズ

<table>
<tr><td colspan="2">電　　　　　源</td><td>AC100 V、50/60 Hz</td></tr>
<tr><td rowspan="2">映
像
部</td><td>入　力　回　路</td><td>カメラ入力　　：映像４回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω 、BNC接栓
　　　　　　　　音声２回路、ステレオ、10 kΩ 、−10 dB *1、不平衡、ピンジャック
ビデオ　　　　：映像３回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω 、BNC接栓
　　　　　　　　音声３回路、ステレオ、10 kΩ 、−10 dB *1、不平衡、ピンジャック
ビデオミキサー：映像１回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω 、BNC接栓
予備　　　　　：映像１回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω 、ピンジャック
　　　　　　　　音声１回路、ステレオ、10 kΩ 、−10 dB *1、不平衡、ピンジャック</td></tr>
<tr><td>出　力　回　路</td><td>ライン　　　　：映像３回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω 、BNC接栓
　　　　　　　　音声３回路、10 kΩ 、0 dB *1、平衡、着脱式ターミナルブロック
メインモニター：映像１回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω 、BNC接栓
モニター　　　：映像３回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω 、BNC接栓
録画　　　　　：映像１回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω 、BNC接栓
　　　　　　　　音声１回路、10 kΩ 、−10 dB *1、不平衡、ピンジャック</td></tr>
<tr><td rowspan="2">音
声
部</td><td>入　力　回　路</td><td>アナウンスマイク　：１回路、10 kΩ 、−50 dB *1、電子バランス、ダイナミック型、3P、メタコン
マイク　：２回路、10 kΩ 、−50 dB *1、電子バランス、ダイナミック型、着脱式ターミナルブロック
ラジオ　：１回路、10 kΩ 、0 dB *1、電子バランス、着脱式ターミナルブロック
チャイム　：１回路、10 kΩ 、0 dB *1、電子バランス、着脱式ターミナルブロック
CD　：１回路、ステレオ、10 kΩ 、−10 dB *1、不平衡、ピンジャック
MD／カセット　：１回路、ステレオ、10 kΩ 、−10 dB *1、不平衡、ピンジャック
リモートマイク　：１回路、10 kΩ 、0 dB *1、不平衡、ピンジャック
マイク／ワイヤレスチューナー：１回路、10 kΩ 、−50 dB *1、電子バランス、着脱式ターミナルブロック</td></tr>
<tr><td>出　力　回　路</td><td>ライン　　　：３回路、0 dB *1、電子バランス、着脱式ターミナルブロック
モニター　　：１回路、−10 dB *1、不平衡、ピンジャック
スタジオ連絡：１回路、−10 dB *1、不平衡、ピンジャック
録音　　　　：１回路、−10 dB *1、不平衡、ピンジャック</td></tr>
<tr><td rowspan="3">特
殊
効
果</td><td>映　像　入　力</td><td>カメラ（ビデオ）：４回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω 、BNC接栓</td></tr>
<tr><td>映　像　出　力</td><td>カメラ（ビデオ）：２回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω 、BNC接栓
モニター　　　　：１回路、VBS1.0 V (p-p)、75 Ω 、BNC接栓</td></tr>
<tr><td>機　　　　能</td><td>切換エフェクト　：ミックス、ワイプ1、ワイプ2
合成エフェクト　：ピクチャー・イン・ピクチャー４種類、ルミナンス・キー２種類、クロマ・キー、スーパーインポーズ</td></tr>
<tr><td colspan="2">タッチパネル部</td><td>抵抗膜方式
10型カラーアクティブマトリクスLCD、WVGA（800×480）</td></tr>
<tr><td colspan="2">映像（副）モニター部</td><td>7.5型液晶モニター３台</td></tr>
<tr><td colspan="2">カメラタリー出力</td><td>３回路、メイク式、着脱式ターミナルブロック</td></tr>
<tr><td colspan="2">スピーカー回路</td><td>（局数*2 ＋一斉）×３系統（30～60局*2）</td></tr>
<tr><td colspan="2">ラジオチューナー部</td><td>アンテナ入力：AM　530～1,620 kHz、ローインピーダンス、BNC接栓
　　　　　　　FM　76～90 MHz、75 Ω 、BNC接栓
メモリー局数：AM、FM各５局</td></tr>
<tr><td colspan="2">チ　ャ　イ　ム</td><td>４音電子式チャイム</td></tr>
<tr><td colspan="2">緊　急　放　送</td><td>一斉アナウンス優先放送</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用温度範囲</td><td>0～40 ℃</td></tr>
<tr><td colspan="2">仕　　上　　げ</td><td>ラック側板：木製、オフホワイト（マンセル4.9Y8.0/1.2近似色）、コート紙貼り</td></tr>
<tr><td colspan="2">寸　　　　　法</td><td>1,221（幅）× 1,120（高さ）× 860（奥行）　mm</td></tr>
<tr><td colspan="2">質　　　　　量</td><td>142 kg</td></tr>
</table>

*1 0 dB = 1 V
*2 システム品番により異なります。
※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。